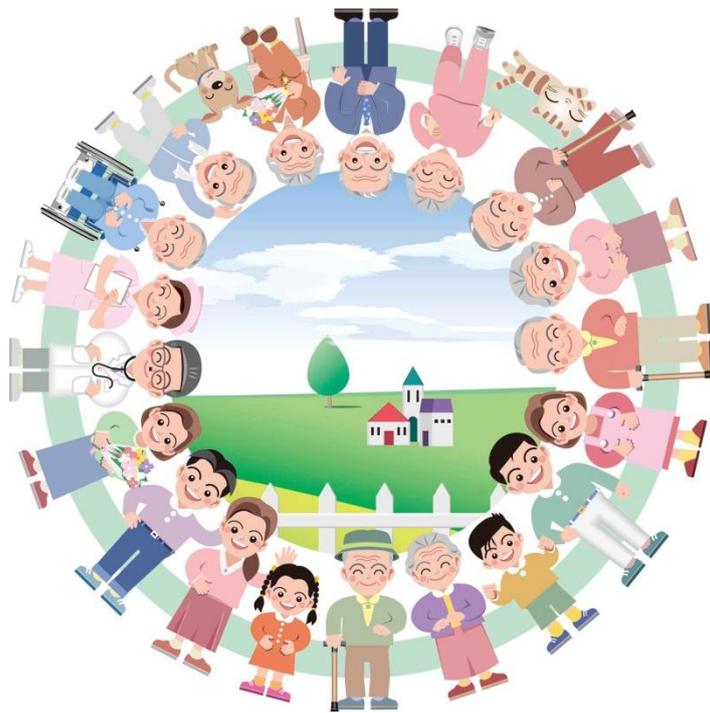


習志野市

次期基本構想・基本計画策定市民会議

— 提案書 —



平成 24 年 12 月

**次期基本構想・基本計画
策定市民会議**

目次

1	基本構想・基本計画と市民会議の役割	1
2	市民会議の進め方	1
3	市民会議の運営方法	2
4	実施概要	2
5	提 案	3
	テーマ1 保健・医療・福祉	3
	テーマ2 地域経済・産業の振興	7
	テーマ3 危機管理・安全対策、都市基盤の整備、環境政策の推進	11
	テーマ4 子育て・教育・学習	16
	テーマ5 その他、男女共同参画社会、交流の推進、平和啓発事業の促進	20
6	資料編	23
	テーマ1 保健・医療・福祉 (1) 議事要旨	23
	テーマ1 保健・医療・福祉 (2) ワーキング作業結果	26
	テーマ2 地域経済・産業の振興 (1) 議事要旨	29
	テーマ2 地域経済・産業の振興 (2) ワーキング作業結果	34
	テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (1) 議事要旨	37
	テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (2) ワーキング作業結果	42
	テーマ4 子育て・教育・学習 (1) 議事要旨	45
	テーマ4 子育て・教育・学習 (2) ワーキング作業結果	51
	テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (1) 議事要旨	53
	テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (2) ワーキング作業結果	58

1 基本構想・基本計画と市民会議の役割

「基本構想」「基本計画」とは、習志野市のまちづくりの指針となる市の最上位計画のことです。

習志野市では、習志野市文教住宅都市憲章の理念に則り、「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市（まち）習志野」の実現に向け、「習志野市長期計画（平成 13～26 年）」に基づいた、総合的かつ計画的な行財政運営を進めてきました。その間、少子高齢化の進展や人口減少時代の到来を迎えるとともに、経済産業構造も大きく変化しており、そうしたなかで、市民に最も身近な基礎自治体として、健全で自立した自治体経営を進めていくことを多くの市民が期待しているところです。

この度、次期基本構想の策定にあたり、本市の現状・課題を市と市民が共有し、ともに「めざすべきまちの姿」「まちづくりの方向性」を形づくっていくことを目的に「次期基本構想基本計画策定市民会議」が設置されました。市民委員は市内に住民票がある 20 歳以上の市民の中から市が無作為に抽出し、そのうち参加を希望した 18 名によって組織されています。

市民会議委員名簿

氏 名	居住地区	氏 名	居住地区
五十嵐 理恵子	藤 崎	櫻井 ますみ	東習志野
井上 昇二	袖ヶ浦	佐藤 淳	大久保
江口 幸恵	津田沼	佐野 正孝	実 籾
小原 松枝	花 咲	澤根 正好	鷺沼台
金子 美代子	藤 崎	高島 満子	袖ヶ浦
菊池 大	屋 敷	苗村 教子	本大久保
工藤 光明	津田沼	平川 嘉伸	大久保
近藤 鈴奈	谷 津	松野 さやか	谷 津
斉藤 大貴	本大久保	安武 みな子	本大久保

※五十音順（敬称略）

2 市民会議の進め方

市民会議の運営にあたっては、基本的に市役所職員は会議に加わらず、市民会議委員による市民目線の発想で「課題の抽出」を行い、それを解決するための「市の役割」「市民の役割」について意見を出し合いました。そのため、意見の中には、**市や関係機関が既に取り組んでいることも含まれていましたので、最終的に市と協議を行い、一部の意見については、提案に反映せず、資料編への掲載に留めております。**

3 市民会議の運営方法

市民会議では、これからの習志野市の方向性・目標を描いていくために、市民委員が主体となって進行するワークショップ（KJ法）形式で協議を行いました。各回、テーマを設定し、課題の抽出、市・市民の取り組みについて話し合い、その成果については市のホームページに逐次掲載されています。

市民会議（ワークショップ）風景



4 実施概要

回（月・日）	内 容（テーマ）
第1回 （5/26）	習志野市長期計画（基本構想・基本計画）、ワークショップの進め方について
第2回 （6/23）	ワークショップ① テーマ1 「保健・医療・福祉」
第3回 （7/21）	ワークショップ② テーマ2 「地域経済・産業の振興」
第4回 （9/8）	ワークショップ③ テーマ3 「危機管理・安全対策、都市基盤の整備、環境政策の推進」
第5回 （10/6）	ワークショップ④ テーマ4 「子育て・教育・学習」
第6回 （11/10）	ワークショップ⑤ テーマ5 「その他：男女共同参画社会・交流の推進・平和啓発事業の促進」
第7回 （12/8）	提案書の提出

5 提 案

テーマ 1 保健・医療・福祉

◎提案の背景と総括

習志野市では、市民の主体的な健康づくり活動を支援するために、環境整備を進めているということです。しかし、それらの取り組みが十分に市民に浸透しているとは言い難く、健康づくりに関するイベントや事業を知らなかったという意見が多く出ました。また生活習慣病対策としてウォーキングの推進をはじめ、各種運動教室なども開催していますが、自主的に気軽に運動できる場が少なく、ハミングロードの美化・整備や各地区の公園の健康器具の設置などを希望したいと思います。

全国的に課題となっている高齢化については本市においても深刻で、平成 23 年度末の高齢化率は 20.2%となっています。市では市民の 5 人に 1 人に及ぶ高齢者を社会活動の担い手として期待しており、社会参加への支援に力を入れているということは、元気な高齢者を増やすということで、とても良いことだと思います。一方で、支援が必要な方として、ひとり暮らし高齢者の孤立解消や、買い物弱者への支援など、市と市民が一緒になって解決していかなければならない課題が多くありました。介護が必要になった場合は、そのまま市内で暮らせるように福祉施設の充実が求められます。現在、既存の特別養護老人ホームの増床や、新たな施設の誘致などを計画しているということですが、入所施設が増えると、65 歳以上の市民が負担する介護保険料も上がるため、サービスと負担の兼ね合いを十分に配慮していただきたいと思います。

障がい者福祉については、我々市民も理解が不十分だという反省の言葉がありました。私たちも障がいを持った方と積極的に関わり、市は交流を深める機会を設定していただきたいと思います。

福祉のまちづくりという面では、高齢者や障がい者が安心して地域生活を送るために、歩道の段差解消などのバリアフリー化が急務であるということが委員の共通した意見として挙げられました。また移動手段の観点から、市内公共施設、福祉・医療施設などへの「足の確保（ハッピーバス）」を整備していることから、引き続き利便性の向上に努めていただきたいと思います。

全体として、保健・医療・福祉に関しては市民に最も身近な問題であることから、市民一人ひとりが関わることも数多くあり、市は市民の取り組みを支援する環境を整備するとともに、必要な情報を効果的に周知して下さるようお願いいたします。

【健康づくり】

◆課題：市が市民の健康づくりのために取り組んでいる事業のPR不足。参加する人が少ない。

○市の役割：広報の方法などを工夫・改善して、事業を市民に知ってもらえるよう努力する。

○市民の役割：介護が必要とならないよう、自らが健康づくりに対する意識を高め、イベントや保健事業、市主体の健康づくりクラブなどへ参加する。

◆課題：気軽にスポーツ、運動を行える場所が少なく、ハミングロード等は汚いイメージがある。

○市の役割：スポーツ施設、サイクリングロードなどの運動の場を整備し、市民の活用を奨励する。また、公園等に健康器具を整備するほか、日常生活に身近な場所である学校施設の開放を図る。

○市民の役割：積極的な施設利用に努めるとともに、公共的空間の美観を守り、ごみのポイ捨てなどはしない。

◆課題：自らの健康づくりについて、日頃から取り組む人が少ない。

○市の役割：歩くキャンペーン（1日一万歩）の企画や65歳以上の人に万歩計をプレゼントするなど、日常生活の中での健康づくり意識の向上に努める。

○市民の役割：1日1時間歩くなど、歩くキャンペーンに積極的に参加するとともに、自分から健康づくりのサークル等に積極的に参画する。

◆課題：夜間救急が分かりにくい。他市のような救急センターがない。

○市の役割：医科大学等との支援契約で医師の確保に努める。

○市民の役割：基幹病院の設置を粘り強く関係機関に要請する。

◆課題：子どもの医療費助成対象期間が短い。医療費が高い。医療費の明確化が必要。

○市の役割：子どもの医療費助成の対象年齢を拡大する。

○市民の役割：安易に医療受診しない。

◆課題：かかりつけ医が少ない。夜間等に体調が悪くなったら、どうしたら良いか分からない。

○市の役割：当番医の制度を医師会などと協議し、通院のための移動交通手段を整備する。

【高齢者支援】

◆課題：介護や福祉に関する相談先、医療費や移動支援などのサービスや補助制度が分からない。

○市の役割：介護・福祉をはじめとした市政全般にわたる総合相談、コールセンター等の設置を検討し、相談は即時対応に努める。

○市民の役割：情報を与えられるだけでなく、自主的な情報収集に努力する。

◆課題：一人暮らし高齢者が増加するなかで、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが必要。

○市の役割：特別養護老人ホーム等の介護施設を整備するとともに、要介護者がいる世帯への具体的な市の制度（フォロー）の周知に努める。

◆課題：買い物をする場所が少ない。移動が不便。

○市の役割：地域のコミュニケーションの醸成を支援するとともに、移動・買い物の利便性向上のため、歩道の整備、危険箇所の解消、タクシー乗り場やコンビニエンスストアの増設などを関係機関に働きかける。

○市民の役割：地域との関わりを自分達でもつくり、支えあう。

【障がい者支援】

◆課題：市内の歩道は狭く段差が多く、障がい者をはじめとした交通弱者の移動が困難。障がい者と交流する機会がない。障がい者に対する市の対策が分からない。

○市の役割：バリアフリーの推進、歩道や自転車専用道路等の整備を進め、市民の安全な移動を確保する。

○市民の役割：障がい者との関わりを自分達でもつくり、支えあう。

【地域福祉】

◆課題：地域の人との交流（定年後や世代間）の機会がない。特に若年層向けの公共施設が少ない。街なかには、気軽に入れる喫茶店が少なく、公園やマラソン道路等は清掃されておらず近寄りづらい。

○市の役割：市民が交流する場所を増やす。また、防災訓練等を実施し、市民に団体意識を持たせる。

○市民の役割：町会を活用するとともに、日頃から地域の人に声かけ、仲間づくりをする。

◆課題：市と市民の架け橋である社会福祉協議会との接点がない。地域の情報が入ってこない。

○市の役割：社会福祉協議会・市民との連携を強化する。また、定期的に習志野マニュアルを配布するなど、広報の方法を改善する。

○市民の役割：隣近所での情報交換・情報の共有（Twitter 等も活用）、積極的な情報収集に努める。

◆課題：地域には社会福祉協議会、まちづくり会議、消防団等の様々な機関・団体があるが、交流のきっかけがない。連携の方針が見えない（防犯・防災等）。

○市の役割：地域ごとの連携ができる場をつくり、それぞれの地域活動についてPRする。

○市民の役割：地域に合わせたコミュニティの形成に努める。

◆課題：市民協力の方針が見えない。

○市の役割：市民が社会貢献できるようバックアップし、地域活動に対する市の補助をPRする。

○市民の役割：参加型の福祉として自らの知識・経験を社会参加に活かす。ボランティア活動の声かけをする。

【その他】

◆課題：高齢者の医療費、介護費の増大により保険料が上昇している。

- 市の役割：医療費、介護給付費などの情報公開に努めるとともに、医療・介護などを必要としないよう健康づくりを推進する。
- 市民の役割：健康の維持・増進の自覚をもつ。

◆課題：食の安全性（特に放射能不安への対応）が問題となっている。また市が行っている地産地消の取り組みが見えない。

- 市の役割：市は市民への食育の支援と推進を図るとともに、市民農園の取り組みを助成し、子どもが農業体験をできる場を作る。
- 市民の役割：市の事業へのボランティア参加、農業指導に積極的に参加する。

◎提案の背景と総括

本市においても地域の商店街がシャッターを閉めているだけでなく、空き地になってしまったところも見かけるようになりました。市では、商店街の賑わいと地域コミュニティの再生を図るため、商店街の空き店舗等を活用した地域交流施設等の設置・運営を推進し、商店街共同施設の整備と運営を支援しているということです。市民会議においてもまちの活性化のためには空き店舗の利活用が最も重要であるととらえ、市へは開業、出店の補助や経営のノウハウをレクチャーするなどの支援を求めるとともに、市民は地元の商店街での買い物やイベントなどへの参加を通して、賑わいを取り戻す努力をしましょう、ということになりました。また、市内の大学周辺に、若者に魅力のある店舗の出店を奨励すれば、若者文化の発信地として活気が出てくるのではないかという意見がありました。

企業の進出については、市の税収の安定確保のためにも重要であることから、新たな企業誘致には、例えば、市として通勤用のバスを運行させるなどの優遇策をとり、市民の就労を優先的にしてもらうなどの配慮をしてもらえないか、という意見がありました。また、工場だけではなく、「音楽のまち」や「教育のまち」をアピールできる文化施設や、商業施設等のサービス業が進出してくれば地域の発展にもなり、さらに、それらの企業と一緒にまちづくりを企画していくことも習志野市の特徴となって良いのではないのでしょうか。

習志野市の農業については、今まであまり関心がなく、習志野特産のにんじんや、それを素材にしたクッキーや煎餅などの製品があることをほとんどの委員が知りませんでした。JA 千葉みらい習志野支店では、農業まつりや料理講習会でにんじん料理のレシピを紹介するなど、PR に努めているということです。我々市民においても、地元のを積極的に食べるとともに、市民レベルで市外の人に広めていくべきだと思います。

また、東京都心に近いという地理的条件を活かし、遊休農地を活用した市民農園・観光農園を開いて、子どもが土に接する機会、市民が土に親しむ機会を設けたら良いのではないか、という意見がありました。市民がボランティアとして農業指導を行うこともできるということでした。産業については、谷津干潟やバラ園を有する習志野市においては観光という面もありますが、観光独自ではなく、他の産業やイベントと連携し、市外から人を呼び込む仕掛けをつくることから始めるのが良いと思います。

産業については市の取り組みに負うところが多く、一人ひとりの市民ができることには限界がありますが、市民は市の取り組みの方向性をしっかりと把握し、積極的に協力していきたいと思います。

【商業】

◆課題：地元の商店街では、空き店舗が増えて、シャッター通りや空き地となっており、大店舗へ人が流れている。

○市の役割：以前好評だった共通商品券を復活し市内の流通の活性化を図るとともに、商売を始めたい人への資金援助、起業のアドバイスをする総合窓口の設置、空き店舗の情報発信などを行い、所有者と貸借希望者の間を調整する。

○市民の役割：地元の商店街を守り育てるといった意識をもつ。

◆課題：JR津田沼駅と比べ、京成津田沼駅とその周辺は、利用客が多いにも関わらず寂れている。習志野市らしい特色ある商店街、商業施設がほしい。京成津田沼駅前にあったホテルが市仮庁舎となったが、その後の利用の方向性が見えない。

○市の役割：企業やJR、京成電鉄等と積極的に連携して市内の商業活動の活性化に努める。地元商店街を支援するための朝市・夕市の開催。市役所（新庁舎）の最上階を文京区役所のようにレストランにして、人の流れをつくる。

○市民の役割：地元で買い物する。フリーマーケットの開催（地元野菜を扱う）、参加などを通して、賑わいのあるまちづくりに参加する（まちの治安にもつながる）。

【工業】

◆課題：市内にどんな企業があり、何を作っているのか分からない。市から企業が撤退している。

○市の役割：市内企業のPRを企業とともに行う。今ある企業が撤退しないように、地元住民を従業員として一定の割合で雇用したら法人税を減額したり、その企業に対するコミュニティバスの運行等の優遇策をとる。市民が地元で働くことができるよう雇用のマッチングをする。

○市民の役割：なるべく市内企業で働き、市内企業が開催するセール・イベントに参加するなど、企業が習志野市に根付くようにする。

【都市農業】

◆課題：JR津田沼駅南口周辺の再開発などで農地の減少が進んでいる。

○市の役割：遊休農地を市民農園として活用できるように農業従事者に働きかける。

○市民の役割：ニンジンやネギなどの市内特産品の消費に協力する。

◆課題：観光農園がない。農業に対する関心が少なくなってきた。

○市の役割：ドイツのクラインガルデンのような「滞在型市民農園」として、都会の方が農地に1~2泊して農業を楽しむ施設を作る（例：茨城県八千代町「クラインガルデン八千代」）。ニンジンやネギ等の市内特産品を市民とともに積極的にPRする（買える場所、レシピ等）。

○市民の役割：ニンジンやネギなどの市内特産品を全国に発信する。

【観光】

- ◆課題：習志野市の観光資源としては、谷津干潟とバラ園ぐらいしか思いあたらない。谷津干潟は鳥が少なく、自然環境が悪くなってきている。谷津バラ園は大型バスの駐車場がなく住宅地に路上駐車が発生している。

○市の役割：貴重な観光資源である谷津干潟を有機物の豊富な自然な姿に戻す。谷津駅近くには駐車場を整備するなど、市内の交通アクセスを工夫する。その他、海岸沿いの緑地でバーベキュー、花火、潮干狩りなどができるレジャー環境を整備し、市外から人を呼び込む。

- ◆課題：習志野市で観光と言ってもピンとこない。習志野市で観光に力を入れる必要はない。

○市の役割：他産業と連携し、市外住民との交流の観点から観光を推進する。都心と成田空港との中間に位置している利点を活かして、宿泊施設やぶらっと立ち寄れる場を設ける。谷津バラ園の近くに駐車場を整備するなど商店街の活性化へつなげる。その他、「市民まつり」の年2回開催やB1 グルメなどのイベントを企画して人を呼び込む。

○市民の役割：イベント等の行事に参加し、消費拡大と特産品のアピールに努める。また、「のんびり」過ごしたい都市住民との交流を図る。

- ◆課題：習志野市には郷土博物館などの施設がなく、市外の人に市の歴史を紹介する機会がない。

○市の役割：習志野市の歴史をインターネット等を活用して広く紹介する。

○市民の役割：自分の郷土の歴史を学び、市外から訪れる人々に紹介する。

【新しい産業・企業誘致】

- ◆課題：市民にとって住み良いまちをつくっていくために、ある程度の税収確保が必要なので、企業誘致を積極的に進める必要がある。

○市の役割：市内へ進出してくる企業を税制面などで優遇する。

- ◆課題：音楽、スポーツ、学習の街と言われるような産業の創造が必要。

○市の役割：スポーツ・音楽関係のクラブが合宿できるような施設を整備する。集客性のある施設をつくる。色々な企業とタイアップしてスポンサーになってもらい、巨大なイベントを開催する。

- ◆課題：せっかく市内に千葉工業大学、日大生産工学部があるのに、学生と地域との交流があまりない。

○市の役割：大学からの起業をサポートする。市内企業と大学のコラボレーションを仕掛ける。大学生が住む場所の提供、補助を行い、多くの学生に住んでもらう。

○市民の役割：学生が通る道を魅力あるものとし、学生街としての魅力をアピールする（例：下北沢）。

【消費者問題】

- ◆課題：高齢者が買い物に行ける環境や利便性が不足している。スーパー、商店の営業時間が短い。
 - 市の役割：道路のバリアフリー化や、「動く歩道」の検討、コミュニティバスの運行により利便性の向上を図る。
 - 市民の役割：バスなどを利用して、習志野市内で買い物をする。

◎提案の背景と総括

危機管理・安全対策として、昨年の東日本大震災を経験して、情報伝達手段や避難所のあり方、ライフラインの維持・確保など、様々な課題が市民の目にも浮き彫りとなりました。市ではそれらを踏まえ、実効性のある「地域防災計画」を策定し、市民の生命と財産を守るための取り組みに努めているということです。市民は、地域との連携を強化し、高齢者・障がい者等の災害時要援護者を守るという意識が必要です。これは日頃の防犯活動にもつながり、地域づくりの観点から非常に重要なことだと思いました。

救急体制においては、市は普通救命講習の受講率日本一を掲げ、行政と市民が一体となった救急体制の構築を目指しており、普通救命講習に指導員として協力するために設立された市民団体と協働し、普通救命講習の実施及び啓発を行っているということです。また、救急出動件数は年々増加しており、全救急搬送に占める軽症患者の割合が約半数を占めていること、65歳以上の高齢者の救急搬送の増加などが課題となっているようです。市民においても救急教育への参加や路上障害物の撤去などを通して協力できるのではないのでしょうか。

都市基盤においては、やはり道路が狭い、国道 14 号の渋滞、開かずの踏切など、道路事情がよくないということが大きな課題でした。道路整備は、用地買収や補助金等の財源確保等の問題で事業が長期化することは市民としても理解していますが、事業の進捗が市民には伝わってこないのが、道路計画の話し合いの場には一般市民も参加できるようにして、市民も積極的に出席して意見を出すことが大切であると思います。水道とガスについては、習志野市は自前で運営していることから、他市と比較して料金が安いということは、とてもありがたいことだと思います。

環境については、市は谷津干潟を所有する環境省と連携して、干潟の環境保全やアオサ対策に努めており、干潟の保全と活用については、市民や関係団体との意見交換の場を設けているということです。世界に誇る習志野市の財産である谷津干潟を市民一人ひとりが大切に守り、その環境保全の意識を市内全域に広げていくことが市民の役割であると感じました。

環境政策の推進は、全体的に長期的な視野に立って、計画的に取り組むべき課題といえます。次代を担う子どもたちにより良い習志野市を伝えていくために、私たちも長期的な視点にたって、市の事業に注目していかなければならないと感じました。

【危機管理】

- ◆課題：災害時に住民に情報が伝わらない。電気などライフラインの確保が心配。危機管理は行政だけではなく、市民が参加することが大事であるが、意識はあっても実際に訓練等に参加する人は少ない。町会に参加しない、できない人も多い。

- 市の役割：地域住民とのコミュニケーションを増やし、市民の地域参加を促進し、危機管理意識の向上を図る。市民が参加したくなる行事を考えていく。地区別の避難計画等を策定する。

- 市民の役割：必要な知識を自ら身に付けるとともに情報を共有化する。日頃の暮らしのなかで危機管理体制を整える。

【防災】

- ◆課題：地震があった際に、どこへ向かえば良いのかわからない。市からの情報が伝わらなかった。市外の人を受け入れる備えも必要である。

- 市の役割：市は、災害時に市民が円滑に行動できるよう、避難所単位のシミュレーション訓練を行う。また、防災拠点を整備し、食糧・飲料水などの備蓄を行う。情報発信については、携帯電話やその他のツールを整備する。

- 市民の役割：市民は、防災用具等を各家庭で準備する。消防・防災訓練などに積極的に参加する。

- ◆課題：地域での連携が希薄であり、災害時の高齢者、障がい者などの安全確保に不安を感じる。

- 市の役割：災害時要援護者支援マニュアルに基づいて、災害弱者の避難誘導體制を整備する。

- 市民の役割：地域のひとり暮らし高齢者や障がい者、妊婦等に日頃から声をかけ、災害時にはその避難活動を手伝う。

【消防・救急】

- ◆課題：道路が狭いため、消防車が入って行けない場所がある。

- 市の役割：消防・救急活動が円滑に行えるよう、路上障がい物の除去や道路整備に努める。市民に対して、消防・救急教育を継続して実施する。

- 市民の役割：消防・救急教育に参加する。

【防犯】

- ◆課題：夜間の街灯が少なく、地域によってはひったくりが多い。町会のまとめ、コミュニケーションの確保が一番の防犯になるのは分かるが、現状では難しい。

- 市の役割：防犯灯の増設、小中学生の防犯ブザー所持、公園内の防犯カメラ設置等により、犯罪が起きにくい環境を整備する。市民防犯の政策、ルールづくりなど、各町会で取り組むべきことを提案する。

- 市民の役割：「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識をもつ。地域で見守る。

【交通安全】

◆課題：最近自転車が増えたため事故が多いと思われる。電柱も歩行の邪魔になる。

- 市の役割：歩道や車道、自転車専用道路の整備、街灯の設置や電線・電柱の地中化を行う。
また、路上駐車のパトロールを行う。
- 市民の役割：自転車の運転や歩く時のマナーを意識する。

【市街地整備】

◆課題：以前と比べると減ってはいるが、看板などで景観が損なわれているエリアがある。

- 市の役割：景観条例を定め、習志野市らしい景観の方向性を定める。
建物の高さ制限を定める。
- 市民の役割：習志野市らしい景観について意見を出し、それに基づいて美観の保全に努める。

◆課題：JR津田沼駅をはじめ駅からバス停までの間に屋根がなく、雨に濡れてしまう。

- 市の役割：駅周辺の屋根の設置など利便性の向上に努める。

【住宅】

◆課題：古い団地が増えており、耐震化も問題。居住者の高齢化への対応が必要。

- 市の役割：長期的ビジョンに基づいて、市は市営住宅の将来計画を策定する。一般住宅の耐震化については、市の補助制度に基づいて進める。

【道路】

◆課題：習志野市は道が狭く複雑で、国道14号はいつも混雑している。開かずの踏切もそれを助長している。

- 市の役割：狭隘道路の拡張を行うとともに、鉄道の高架化を鉄道会社と共同で行い、渋滞解消に努める。
- ◆課題：幹線道路が整備されていないことから市内の移動がスムーズではない。災害時の輸送道路が分からない。
 - 市の役割：防災と合わせた道路整備（災害時の輸送道路）を行い、輸送道路は市民に周知する。
 - 市民の役割：道路計画に合わせた話し合いに積極的に参加し、意見を出す。
- ◆課題：歩道が整備されていない道路がある。
 - 市の役割：歩行者の安全確保のため歩道を広くするなど整備する。

【公共交通】

◆課題：南北移動で公共交通の便がない（津田沼～茜浜・千葉市海浜幕張地区）。谷津駅に快速電車が停まらない。

- 市の役割：南北の移動手段を確保するとともに、通勤時間帯に谷津駅に快速電車が停車するよう京成電鉄に要望する。

【下水道・ガス・水道整備】

◆課題：配管の老朽化。下水道の普及。

- 市の役割：下水道幹線を耐震化するとともに未整備地域の整備を進める。
- 市民の役割：下水道が敷設された地域では利用する。

◆課題：大雨の後に冠水する所がある。谷津地区の下水が逆流する。

- 市の役割：アンダーパスの冠水をカメラ監視し、人命を守るための対策を行う。
- 市民の役割：冠水に関しては市に速やかに通報する。

◆課題：市のガス代は安くてありがたい。経年管が多く耐震化が必要。

- 市の役割：宅地内のガス管入れ替えの補助金制度を充実し、配管の耐震化を計画的に進める。
- 市民の役割：ガス管入れ替えの補助金制度を活用して入れ替えをする。

◆課題：市の水道代は安くて水は美味しい。水道は古い経年管が多くて災害時の貯水・給水は大丈夫なのか不安である。

- 市の役割：宅地内の水道管入れ替えの補助制度の設置により、配管耐震化を計画的に進める。
貯水に関しては市民に安全性をPRする。井戸マップを作成・管理し、災害時に井戸を提供して協力する市民には助成する。
- 市民の役割：防災訓練に参加して各家の貯水状況を把握し、井戸を持っている方は井戸を地域に開放する。

【地球温暖化対策】

◆課題：地球温暖化の原因として化石燃料の使用によるCO₂の排出が挙げられることから、それを抑制することが必要である。

- 市の役割：自然エネルギー（太陽光・風力発電）を使用するにはコストがかかるため、市は補助金等の助成を行う。海浜部等を風力発電に利用してCO₂を削減する。
- 市民の役割：太陽光パネルや、ソーラー給湯の導入、照明器具のLED化などCO₂を減らす努力をする。

【自然環境】

◆課題：人が手を加え過ぎたことによって谷津干潟の自然が失われている。鳥も減っている。干潟の自然を保持しながら活用することが必要である。

○市の役割：自然環境を元に戻した循環サイクルを作る。有機物を増やし、ゴカイやカニを増やし、鳥を増やす。

○市民の役割：海藻の無臭堆肥化を行い、干潟を自然な姿に戻す。

◆課題：宅地開発などによって林や農地が減少している。

○市の役割：林や農地の保全に努め、市民へ働きかける。

○市民の役割：自然環境の保全について意識を高める。

【公園緑地】

◆課題：公園の利用で禁止の看板が多く、自由が制限されている。良い公園があっても交通手段がない。公園がなかなか活用されていない。

○市の役割：今ある公園を子どもが安心して遊べるよう整備する。高齢者も一緒に過ごせるよう、健康器具を設置する。様々な世代がともに楽しめるように活用する。花を植えて緑地を増やすイベントを開催する。

○市民の役割：公園を自主管理し、維持・保全する。地域ごとに防犯を兼ねた公園の見回り活動を行う。花づくりをしたり、世代間交流の場として活用する。

【廃棄物】

◆課題：習志野市に限らず不法投棄が増えている。習志野市の焼却炉は性能が良いため、これ以上ごみの分別を強化する必要はない。

○市の役割：焼却施設の保全・定期的な整備で炉の長寿命化を図る。ごみの減量化を進めるとともに、ごみから有価物をつくる。

○市民の役割：一人ひとりが不法投棄について意識するとともに、子ども会等に参加して美化活動に取り組む。どうすれば燃えるごみの量を減らすことができるか考える。

【環境の保全】

◆課題：市の放射能汚染対策が市民に伝わっていない。

○市の役割：市で測定・公表している放射線量の周知に努め、市民の不安解消に努める。また、測定器の貸し出しを行う。

◎提案の背景と総括

核家族化の進行、共働き家庭の増加に伴い、子育てと仕事の両立支援を求める声が多くなっています。市では、保育と教育の一元化と子育て支援への取り組みを合わせ、地域の子育て支援の拠点となる「こども園」を、中学校区を基本として7施設整備することとし、現在までに2施設の整備を終了し、26年までに3施設になるとのことです。また、急増する保育需用や多様な保育ニーズに柔軟に対応するため、公立保育所2施設を民営化したということです。

子育てについては、市の支援が必要であることはもちろんですが、地域で子育てに参加するという視点がこれからは必要となってきます。例えば高齢者のパワーを活用するために、市では交流の場、ルールづくり、仕組みづくりを行ってほしいと思います。また、子どもが伸び伸びと育つためには、「あれもダメ、これもダメ」ではなく、もっと自由に遊ばせて、親と地域が責任をもって見守っていく社会が理想だと思います。

各学校では、豊かな人間性を育むことを目指し、道徳教育や体験学習に重点を置いており、鹿野山少年自然の家や富士吉田青年の家における自然体験活動、運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業、部活動・校外行事等の課外事業にも力を入れているということです。また、学校評議員制度や1000か所ミニ集会などにより、学校が地域や外部の意見を把握することができるようになり、市民の学校教育活動に対する関心が高まっています。さらに、学校支援ボランティア会議では学校間の情報交換が行われ、家庭や地域の優れた人材を教育活動に導入し、学習の広がりや深まりが持てるようになったということです。市はこれらの取り組みに加え、他市の子どもや親が習志野市の学校に通いたいと思えるような魅力をアピールし、市民は学校教育活動に今後も積極的に参加していくことが必要です。

生涯学習については、市内に生涯学習施設が少ない、中核となる図書館がない等の課題がある一方、各地区の図書館が充実しているというメリットもあげられました。図書館について、市のこれまでの取り組みとしては、図書館の祝日開館、開館時間の延長、インターネットによる蔵書検索やメールによる予約など、利便性の向上に努めています。これらを踏まえ、市には自習室・学習室の設置や大学図書館との連携などを求める意見がありました。

その他、市が実施している市民カレッジなどは大変好評であることから、定員や開催日の増加、修了した後のまちづくり活動への参加の機会づくりなどの意見が出されたほか、市民会議委員の生涯学習への関心の高さがうかがえました。

【子育て支援】

◆課題：育児・保育に高齢者パワーの活用方針がない。

- 市の役割：高齢者が子どもと触れ合える場を提供し、交流のルール作りを検討する。
- 市民の役割：保育に高齢者パワーを生かして参加する。

◆課題：公園の制約が多すぎる（「ボール遊びは禁止」、「木にハンモックをつるすのは禁止」等）。我々の世代では考えにくい。

- 市の役割：制約を少なくする。
- 市民の役割：子どもに寛容に、地域住民も一緒に子育てをしていく。制約を要望する前に、ちゃんと叱る。子育ては親と地域が責任をもつ。

◆課題：保育所の待機児童が41人いる。（平成24年9月1日現在）

- 市の役割：待機児童ゼロを目指す。短時間保育で高齢者に活躍していただく。緊急的に受け入れられる安価な保育所の確保を検討する。
- 市民の役割：ファミリー・サポート制度を積極的に活用する。

◆課題：習志野市では、子どもの医療費の助成対象が通院については0歳児～小学校3年生までなので、他市に比べて助成対象期間が短い。

- 市の役割：子どもの医療費助成の対象年齢を引き上げる。
- 市民の役割：適切な受診を心がける。

◆課題：子育て世代に魅力あるまちになれば転入者も増えるのではないか。

- 市の役割：一方的な情報発信（「広報紙で出ていますよ」だけ）ではなく、ITの活用等により、何か質問があった時にアンサーができるような取り組みを検討する。母親の就労を支援する（児童館の充実、JRと提携した子育て支援施設など）。様々な育児サービス情報を周知する。
- 市民の役割：父親も育児に参加する。

◆課題：親の交流・情報交換の機会や場がなく、ママ友ができない。コミュニティが分からず、いわゆる公園デビューができない。昔は、毎月乳児の身長・体重を計ってもらう機会があって、ママ友がたくさんできてありがたかったが、今はなくなってしまった。

- 市の役割：コミュニティの場を広く提供し、交流機会の拡大を図る。育児において孤立化させない。
- 市民の役割：ネットワークづくりや自発的な行動、重要な情報ツールである広報紙をチェックする。

【教育】

◆課題：学社融合の広まりに向けた方針が見えない。小学校給食の食器がワンプレートなので、子どもが犬食いになってしまう。

○市の役割：秋津コミュニティが学校を開放し社会と融合させた取り組みを他地域へも広める。学校の空き教室などを市民へ解放する。学校給食も食育の観点から取り組みを検討する。

○市民の役割：積極的に地域の学校に関わっていく。

◆課題：家庭教育学級の人数枠、回数制限がある。

○市の役割：家庭教育学級の参加希望者が多いので人数枠、回数制限を増やす。

◆課題：文教都市に見合った設備と取り組みが分からない。小中高一貫教育など特色ある教育制度がない。

○市の役割：文教都市として市民に開放された設備や取り組みをPRする。文教都市の実現のため市民レベルまで歩み寄ることが大切。魅力ある教育制度を検討し、他市の子どもが「習志野市の学校に通いたい」と思える教育制度をつくりあげる。

【学習】

◆課題：大人が学習する機会、生涯学習施設が少ない。語学を気軽に学べる場がない。

○市の役割：大学施設の活用などを働きかける。

○市民の役割：積極的に生涯学習活動に参加する。

◆課題：市民カレッジの宣伝・活用が見えない。

○市の役割：市民カレッジなどを交流の場として広め、OB・OGをまちづくりに活用する。

○市民の役割：市民カレッジ卒業後、その成果をまちづくりに活用する。

◆課題：図書館の本は充実しているが、蔵書に特色がない。市には基幹図書館がない。

○市の役割：専門書を増やすなど特色のある蔵書集めを進める。基幹レベルの中央図書館の設置を検討する。図書館の運営を民間に任せる。

○市民の役割：積極的に図書館を利用する。

【スポーツ】

◆課題：スポーツ施設の利用料が高い。習志野市はスポーツや音楽が盛んであるが、合宿をする施設がない。

○市の役割：文教都市として、市民の健康増進を図るため気軽に利用できる施設を市民に提供する。

◆課題：高齢者が公園に魅力を感じない。

○市の役割：公園に高齢者用健康器具等を置くなど高齢者の外出したくなる取り組みを進める。それによってコミュニティづくりへとつなげる。

【文化】

◆課題：農業と食と健康文化の伝承がない。

- 市の役割：食文化学習として市民農園を開放し、料理教室の講師として高齢者パワーを活用する。
- 市民の役割：それらの活動に参加する。

テーマ 5 その他、男女共同参画社会、交流の推進、平和啓発事業の促進

◎提案の背景と総括

習志野市は県内自治体の中でもいち早く、男女共同参画施策を所管する「女性政策課」を平成 3 年に設置し、平成 16 年には県内 4 番目となる「習志野市男女共同参画推進条例」を制定するなど、積極的に男女共同参画施策を推進してきたということです。また、サンロード津田沼 5 階には「男女共同参画センター（愛称：ステップならしの）」があり、市民活動推進の場、情報収集の場、交流の場、学びの場として活用されています。

男性の育児や介護、地域活動への参加については、ワーク・ライフ・バランスの施策の推進や調査・研究を行うほか、男女共同参画センター、商工振興課、人事課において、市民、事業所や職員に対する意識啓発の研修会や講演会を実施しています。

市民、事業所、行政が一体となって働き方を見直し、仕事と生活の調和を図っていくことが必要です。

本市の外国人登録者数は、ここ 10 年で約 1,000 人増加しており、日本語がわかる外国人や日本人家族がいる場合が多いことから、それほど課題が表面化していないということです。そのようななか、市では多文化共生社会の実現に向け、各種交流行事を開催しており、関係団体と日頃から連携し、情報の多言語化等に取り組んでいるところです。昨年には日独交流 150 周年を記念して「ドイツフェア」が開催されましたので、今後も本市と縁のある国々との交流を市と市民が一体となって深めていくことが必要だと思います。交流については、その他、国内では、災害時協力などのテーマに基づいた交流、若者文化による交流、他自治体とのまちおこしを連携して行う交流などについて意見が出されました。

平和啓発事業については、核兵器廃絶平和都市宣言に基づき、8 月 6 日、9 日の平和式典の開催や小・中学校での被爆体験講話、核兵器廃絶平和都市宣言記念展の開催のほか、被爆地へ中・高校生を中心とした平和市民代表団の派遣等、市民の平和意識の啓発、次世代への平和継承を目指して様々な事業を行っているということです。これらの事業についても、市民会議のなかでは知らない委員が多かったことから、市としてはもっと PR していただきたいと思いません。

【男女共同参画社会の実現】

◆課題：地域活動に男性が参加しない。しかし、書類などには男性の名前を書くという慣習が行政も地域にも残っている。

- 市の役割：地域での交流が活性化するように支援する。行政の書類や学校の保護者欄にも、実際にサインする人（母親・女性）の名前を書くようにする。
- 市民の役割：近隣住民と普段からお付き合いをする。男女ともに意識改革に努める。

◆課題：働きたい女性の子育て支援、就労支援が十分ではない。近くに保育所があると良い。

- 市の役割：こども園を開設するのは良いことであるが、預けやすい所につくる。子育てに行政は責任をもって行う。
- 市民の役割：行政に積極的に支援を要求する。男女ともに意識改革に努める。

◆課題：女性の社会的地位は上がってきているが、制度として推進するのに抵抗も感じる。

- 市の役割：男性も地域社会に参加できるような取り組みを進める。
- 市民の役割：家庭内の意識が大切。市や地域のイベントなどに、夫婦一緒に、家族全員で参加する。

【交流の推進】

◆課題：津田沼が千葉県で住んでみたい街の4位となったが、習志野市としては知名度が低い。

- 市の役割：新庁舎を人が集まる独創的なものにする。ストリートミュージシャンが自由に演奏できる場をつくる。若者の文化交流を促進する。
- 市民の役割：他の市町村が行っている「まちおこし」を参考にしたり、連携したりする。

◆課題：習志野市には人を呼び込む魅力的な素材がたくさんあるが、活かしきれていない。

- 市の役割：音楽のまちをアピールする（習志野高校の吹奏楽等）。
- 市民の役割：習志野ゆかりの食材を使ったB級グルメを開発する。

◆課題：イベントが一過性で深まりがない。市内在住の外国人の参加が少ない。

- 市の役割：学校同士の交流を行う。外国人のイベントへの参加を促進する。外国人向けの宣伝を行う。
- 市民の役割：主催者が楽しむだけでなく、皆が楽しんで参加する。生徒間や学童間で交流する。

◆課題：文化交流やふれあいだけでなく、災害時の協力など、さまざまな交流が必要。

- 市の役割：遠隔地行政との協定を結び、交流にも、災害対応にも活かしていく。
- 市民の役割：災害時にお互いに助け合うボランティアに登録し、派遣行動に参加する。

【平和啓発事業の促進】

◆課題：子どもたちが「平和」について実感として理解していないのではないか。

- 市の役割：子どもたちに歴史の積み重ねから平和を教えていく。世界平和の標語を募集する。
具体的な取り組みが見えるようにする。
- 市民の役割：大人が責任をもって戦争の悲惨さ、平和の大切さを教える。
市と連携した見守りを行う。

◆課題：日常の平和・治安の維持が必要。習志野警察と距離感がある。

- 市の役割：市民と連携した見守りのまちづくりを進める。
- 市民の役割：市民の輪を広げる。

【その他】

◆課題：市民が市にあれこれ要望するが、すでに行っていることが多い。市が行っていることに市民の関心がない。

- 市の役割：効果のある広報・PRを行う。
- 市民の役割：「自分のまち」という自覚をもって、市の情報を積極的に収集する。

6 資料編

テーマ 1 保健・医療・福祉 (1) 議事要旨 A 班

「健康づくり」では、市の施設があまり活用されていないのではないかという意見がありました。市は広報等で知って頂く努力が必要で、それに伴い運動できる場所をもっと増やすという意見が挙がりました。また習志野市には比較的整備された道路がありますが、ベンチが傷んでいるので整備して頂き、市民はゴミゼロ運動等に積極的に参加し、同時に自ら健康づくりに対して意識をもって参加するという意識付けを持たなければいけないと考えます。

「高齢者福祉」については、これから高齢者がどんどん増え、共稼ぎの夫婦も増えて自分の面倒もなかなか見ることが出来ない状況になっていくと思いますので、特別養護老人ホームを設置したら良いのではないかと意見が出ました。また、タクシー乗り場やコンビニエンスストア等を増やすという提案もありました。

「障がい者福祉」では、習志野市は非常に段差が多く車椅子の方等は大変という意見がありました。また、小学校前の道路が狭く子ども達が危険であるため、先程のサイクリングロードと重なりますが、自転車専用道路や歩道を広くすると良いという意見がありました。

最後に、市への要望となりますが、今防災訓練をやっていますが、自ら参加し団結意識と防災意識を高めるため、気軽に皆が集まれるような交流の場・施設、例えば喫茶店や以前あった市民食堂のように安くて集まれる場が必要といった意見が挙がりました。また、治安の良いまちづくりのために生涯学習を市で催すのも色々な意味でケアになると考えています。

テーマ 1 保健・医療・福祉 (1) 議事要旨 B 班

最初 5 項目に分けていましたが、市と市民の取り組みが分け切れず、10 個ほど課題が出てきました。

まず「医療」ですが、障がいのある子どもの早期発見・支援、医大との支援契約・医師の確保、他市のような緊急センターや夜間病院が無いといった課題が挙がり、市としては 24 時間対応の基幹病院検討をして頂き、市民は市に要請する、例えば市民運動が必要といった意見が挙げられました。「高齢者支援」では、介護者がいる場合の相談先が不明のため、市では、市政全般にわたってコールセンターの設置を検討して頂き、市民は積極的な情報収集の必要があると考えました。「食育」では、食の安全性と地産地消の取り組みと放射線不安への対応です。市としては市民への食育の支援と推進、市民農園の取り組みの助成、子どもの体験の場を作ることが良いと考えます。市民としては、要介護にならない為の健康づくりを推進し、ボランティア参加、農業指導に積極的に参加していくといった意見が出ました。

「地域福祉」では、リタイアされた方が自らの知識・経験を社会参加に活かせるよう、市が積極的なバックアップを検討し、市民は情報交換や地域の課題を共有していくのが良いのではないかと意見が挙げられました。「子育て支援」では、市は、その日突然お子さんを預けなければいけなくなった市民に対し、緊急的に受け入れられる安価な保育所の確保の検討を提案します。「障がい者福祉」では、障がい者に対する市の施策が分からない、健康保険料の削減方針が見えないといった課題が出ました。また、通院のための交通手段確保や高齢者の医療介護費の増大対策が不明なため、市としては補助内容をPRや情報公開し、市民としては当然積極的な情報収集が必要と提案します。

「市民交流」では、介護が必要とならない健康づくりの推進と、定年後に若者と交流する場を、市は市民に提供して頂き、主に公園整備の必要があり、市民は仲間作りや声かけをするべきであると考えます。

「その他の意見」としまして、特に多く出てきたのはバリアフリー関係です。習志野市は歩道の段差が多く、高齢者や交通弱者の方に優しくないため、インターロッキング舗装による綺麗で、真ん中に植栽されている道路ではなく、バリアフリーを意識した道路整備を提案します。また、幼稚園等に行くバス停と運行時間が分かりづらく、歩道は自転車も通り危ないため、自転車と歩行者の分離といった意見も出ました。あと、全体に繋がる要望としまして、知りたいことを検索できるシステムの設置を提案します。

テーマ 1 保健・医療・福祉 (1) 議事要旨 C 班

一番多く出ていたのが「地域福祉」ですが、市役所や施設、そのサービス等があるにも関わらず、市民に伝わっていないという課題が浮かびました。これに対し、市には広報の方法を改善し工夫して頂きたいといった意見が出ました。また、最近の生活から見ると夜間・休日に市内に人がいることが多いため、市役所や市の施設等も夜間・休日に開けること、また総合窓口があれば良いといった意見も出ました。

「高齢者・障がい者福祉」では、地域全体として社協やまちづくり会議や消防団等ありますが、コミュニケーションが足りず一歩入っていけないところがありますので、市で仲介して頂き、市民もそれに積極的に参加していくことが必要と考えました。

「健康づくり」は、市が「歩こうキャンペーン」といった健康づくりに市民が参加出来るようにしていき、市民もそういうキャンペーンに積極的に参加していくといった意見が挙がりました。

テーマ 1 保健・医療・福祉 (2) ワーキング作業結果 A 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 市のスポーツのジム機が対応できていない。 気軽に簡単なスポーツ・運動ができる所を増やしてほしい(例えば公園等)。 ハミングロード等汚いイメージ。 ゴミ箱が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の活用推進(学校他、山の家の活用)。 公園に健康器具の設置。 市主体の健康づくりクラブの設立。 高齢者の健康のための施設。 マラソン・サイクリングロード整備。 小・中学校の施設開放。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミゼロ運動。 自分から健康づくりのサークル等に参加する。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 特養高齢者ホームの増設(高齢者福祉施設)。 タクシー乗り場を増やしてほしい。 コンビニ等買い物する場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報の発信をメールで欲しい。 	
障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 段差が多くて障がい者は大変そう。 大久保小学校の前の道が狭く危険。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所の分かりやすい標識が欲しい。 生活道路の整備。 	
子育て・児童福祉	<ul style="list-style-type: none"> 自転車専用道路整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の子ども用遊具の設置。 保育園の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 近所の子どもを温かく見守るよう意識する。 子ども間のいじめ等無いか大人が意識する。 子どもに危険なビン等は積極的に持ち帰る。
社会保障・医療	<ul style="list-style-type: none"> 当番医がその地域にあれば良い。 かかりつけ医が少なくなっている。 夜間等に体調が悪くなったら、どうしたらいいか分からない。 病院が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路の整備(高齢者福祉・障がい者福祉・子育て・児童福祉・社会保障・医療においても同様) 	
地域の交流 ・地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人との交流がない。交流施設があれば。 公園やマラソン道路等、清掃されてなく近寄りたがたい。 若年層向けの公共施設が少ない。 気軽に入れる喫茶店が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練をすることで市民の団結意識を持たせる。 交流の場を増やしてほしい。 治安の良いまちづくりのため、生涯学習できる施設を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 町会の活用。 日頃から声かけをするよう個人が気を付ける。 ボランティア活動の声かけ。

テーマ 1 保健・医療・福祉 (2) ワーキング作業結果 B 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
全体		・市民が知りたいことを検索できるように	
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのあるお子さんの早期発見・支援 ・夜間救急が分かりにくい ・他市のような救急センターがない ・子どもなどの夜間病院 ・乳幼児医療補助の拡大 ・医療費が高い・医療費の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・医大の支援契約で医師の確保 ・24H対応の基幹病院 ・子どもの医療費対象年齢の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・市へのお願い・市民運動 ・安易な医療受診はしない
地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の市民協力、連携の方針が見えない ・社会福祉協議会との関係の見直し ・地域にあわせた地域コミュニティの形成 ・参加型の福祉、自らの知識・経験を社会参加に活かす ・通院のための交通手段整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの連携できる場づくり ・社会貢献に対する市のバックアップ ・市の補助PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域参加型の市民協力 ・隣近所での情報交換・共有←Twitterも。 ・積極的な情報収集
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者がいる場合の相談先が不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のコールセンター作る ・要介護者がいる世帯への具体的な市の制度(フォロー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集
食の安全	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全性と地産地消の取り組み ・放射線不安への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への食育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民農園の取り組み、農業指導、子ども体験 ・花いっぱい運動、ボランティアの広がり
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・安価な保育所 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日保育の受け入れやすさ 	
保険料	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の医療費・介護費の増大。対策が見えない。 ・健康保険料の削減方針が見えない。 ・障がい者に対する市の施策が分からない。 ・周知不足？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の情報公開 ・介護が必要とならないような健康づくり推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の自覚
地域の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・定年後の交流の場が少ない。施設が少ない ・高齢者と若者が交流する場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園整備(交流の場)、交流する場所の提供 ・障がい者ボランティアの充実・支援策 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり・声かけ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーの整備 ・歩道の段差が多い ・歩道が狭く、自転車も通るので危ない ・幼稚園や秋津のセンターに行くバス停と、その時間が分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備(見た目ではなく高齢者を意識した) 	

テーマ 1 保健・医療・福祉 (2) ワーキング作業結果 C 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩道の充実 ・市民それぞれ健康か分かっていない。 ・健康診断あるが、疲労やストレスは分かりにくい。 ・スポーツ施設を！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くキャンペーン1日一万歩 ・65歳以上の人に万歩計プレゼント ・プラネタリウム・サッカー・野球・体育館を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1時間（歩くキャンペーンに積極的に参加する）
地域福祉 (社会保障)	<ul style="list-style-type: none"> ・休日診療の充実 ・社会福祉協議会との接点がない。 ・市民が知らない事が多すぎ。 ・交通安全パトロールの時間帯を増やす。 ・防犯対策 ・図書館の活性化。利用されているのか。 ・土日・夜間も施設が開いてない。 ・ホームレスの方への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協との連携 ・広報の仕方改善 ・定期的に習志野マニュアル配布 ・地域のコミュニケーションのできる場を作る。 ・警察・パトロールと連携 ・町にパトロール ・市役所の利用、土日も平日と同じように利用できるようにする。 ・総合窓口時間帯 ・総合相談窓口(夜間、休日もあいてる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを自分達でもつくる。 ・周りの人と挨拶をする。
高齢者福祉・ 障がい者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の一人暮らし対策 ・高齢者の買い物支援 ・在宅介護のあり方 ・高齢者の余暇の過ごし方支援 ・藤崎交番→日大方面。道路の安全対策、歩道・自転車の安全 ・障がい者支援 ・障がい者と理解しあえる場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孤独死対策。地域コミュニケーション指導 ・バリアフリー ・高齢者・子どもたちの危険な歩道の整備 	

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (1) 議事要旨 A 班

項目を分けて、課題・市の取り組み・市民の取り組みと分けましたが、実際には市の取り組み、市民の取り組みというような形で分けることがうまくできませんでした。「消費生活」について意見は出ませんでした。

「商業・工業」については、空き店舗が非常に増えているため、地元の商店街の対策が必要です。JR 津田沼駅と京成津田沼駅には駅ビルがあり、JR 津田沼駅は「駅なか」という形で新しいお店が沢山でき利用者が非常に増えています。それに比べ京成津田沼駅は新京成線があり、また成田や千葉に分かれるポイントとなる駅でもあり、利用するお客さんが多いにも関わらず非常に寂れています。これに対する取り組みについては、以前好評だった「共通商品券」の復活と意見が出ました。また、商売を始めたいと思っても資金や知識がない方、何か新しい事を始めたいが、ノウハウが無いため出来ないという方に対して、資金面や新しい事業に対してアドバイスが出来る総合窓口を市で設置して頂き、更に特長のあるお店が増えていくと、その商店以外にも同時に活性化していくのではないかと考えました。

千葉市と習志野市の境に今度イオンが進出し、非常に大きな商業施設が出来るとのことですが、習志野市もまだ埋め立て地周辺に余った土地があったかと記憶しています。市は、売却にあたり将来のビジョンを持って企業に売る等して頂きたいと思います。

「都市農業」については、農地が非常に少なくなってきました。特に JR 津田沼駅南口周辺が今度の再開発でなくなりましたが、これを市民農園として利用したら良いのではないかと意見が挙がりました。農家に対しては、作った野菜を直販出来る場所ができれば良いと考えます。農業体験については、ドイツを例に、ある農地に一泊二日ほど泊まり都会の方が農業を楽しむといった施設を作るという提案がありました。空き店舗にしろ農地にしろ、貸す側としてはやはり権利等難しい問題が出て貸すことを渋ることもあるかと考えます。空き店舗の方でも言いましたが、市で情報提供し間に入れば、情報を得られるだけでも非常に使いやすいのではないかと考えました。

「観光」は、他の班も出ていましたが、谷津干潟とバラ園ぐらいしか思い浮かびませんでした。が、海岸沿いに緑地があるためバーベキューができ、また花火も見られるとのことなので整備・活用して頂きたいと意見が出ました。また「きらっと祭り」が非常に盛大とのことなので、可能ならば年 2 回企画したら良いのではないかと提案がありました。

その他の意見としては、成田空港へのアクセスが非常に良いため、駅前のホテルは今廃止にな

っていますが、折角あるので何かに活用できないだろうかという意見が挙がりました。埋め立て地のまだ使われていない土地の活用についてですが、効果的な活用が先程のまちづくりも考えて、ただ売るのではなく将来的なビジョンを持ちながら埋め立て地を活用して頂きたいです。

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (1) 議事要旨 B 班

大店舗へ人が流れる京成津田沼駅周辺の商店街を活性化したい、大店舗の増加により小売店がなくなる、谷津駅周辺のスーパー問題、それから特色ある商店街とか商業施設が欲しいといった問題点や要望が挙がりました。そこで市への要請として、例えば朝市とか夕市を作り、時間も夕方 5 時か 7 時からワンコインで買える、といった特色のあるものを揃え、ここで共通商品券を使えるようにするといった行政をやって頂くという意見が出ました。市民は、定期的に参加してフリーマーケットを開催したり、地元野菜を提供していき、自分達がそういう地元の商店街で買い物をしていくという意気込みを持つというところです。

「工業の問題」では、今ある工業が市外に逃げないようにする政策と、逆に誘致することが必要と考えました。行政には、例えば地元住民や従業員を一定の割合で雇用したら法人税を減額する、あるいはその企業に対するコミュニティバスの運行といった提案。

もう一つ大事なことは、例えば茜浜にある既存の企業についてです。どんな企業があり何を作っているのか不明のため、企業の中で何を作っているのかをまず PR して頂くこと、そして市民は可能ならばそこで働く努力をするか、あるいは企業が開催するセールに対してなるべく住民が参加可能にすることといった提案がありました。もう一つ、京成津田沼駅にあったホテルが市役所の仮庁舎となりますが、その後の利用が全然見えてきません。やはり非常に利便性の良い所にあるため、今後の利用を考えて頂きたいと考えます。駅前の元ホテルが市役所となれば、市民にとっては一番利便性が良く、習志野高校のグラウンドも残り、「きらっと祭り」や小学校・幼稚園の運動会も開催できるという発想の転換を提案します。

「都市型農業」ですが、やはり都市型農業であれば、地産地消といった具体的な方針を掲げるべきといった意見が挙がりました。もう一つ、住民としては行政に対して観光農地等を増やして頂きたいことと、農地を残す政策を明確にし、そして市として地産地消制度あるいは文化を確立し指定する等、生産緑地の将来的な確保を要望します。もう一つは、ニンジンやネギの生産量が多いことを、市として積極的に PR し同時にどこに行けば買えるのか PR して頂きたいと要望がありました。また、ただ PR するだけでなく、市と市民が協力してもう一度ニンジンレシピを広めていく必要があると考えました。そして、市民は PR や教育を通じてニンジンやネギを沢山消費し、農協に任せておかずインターネット等で習志野市から全国に発信していくべきといった意見が挙がりました。

「観光」に関しては二つ意見がありました。一つは谷津バラ園、もう一つは谷津干潟の観光で

す。谷津干潟は、今非常に鳥が少なくなってきましたが、理由を考えると、あまりにも干潟が綺麗になりすぎている状態のため、やはりもう一度有機物の沢山ある生き生きとした谷津干潟を作る必要があると考えました。谷津バラ園は、大型バスの駐車場がなく、住宅地のある道路上に沢山駐車しているため、谷津駅近くに駐車場を設ければ、行き帰りに商店街で買い物をして、ついでに宣伝もできるのではないかと意見が挙がりました。それと、市民行事を増やし、そこに住民が参加していけば、消費拡大と地産物のアピールなど観光として盛り上がるのではないかと意見がありました。

その他の意見としては、科学館とかプラネタリウムを京成津田沼駅周辺など便利な場所に作れないか、またスポーツや音楽が盛んな習志野ですが、合宿となると施設がないため、屋内でスポーツや音楽の合宿ができる施設を作るといった提案がありました。以上のことからプラネタリウムといった施設をホテル跡地等に持ってくるといった大胆な発想をして、また千葉工大の JR 駅前の跡地が帰ってくる予定が白紙となったため、もう一度茜浜の千葉工業大学の施設やグラウンド等を今までと同じ無料で使えるよう働きかけを市にして頂きたいと意見がありました。

それともう一つ、津田沼駅周辺の再開発で、今シャッター通りではなく空き地通りとなっている状況のため、やはり企業を誘致するといった一つの施策を市としてやって頂きたいと意見が挙がりました。

「消費者問題」については、消費者にとって非常に問題なのは、高齢者が買い物に行ける環境や利便性が若干不足していることです。解決策としては、一つは道路をバリアフリー化するか、思い切ってエレベータを付けるか、もしくは先程の「商業・工業」でもお話ししたコミュニティバスを積極的に利用できるような環境をまず作って頂くことを提案します。

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (1) 議事要旨 C 班

全体的な意見としては、結局私達にとって習志野市とは、住み良いまちづくりが主であり、そのため産業といってもあんまりピンと来る感じではありません。ただ住み良いまちづくりからして、やはり市が福祉等も考えると予算等が必要になるため一概にないがしろにはできません。

「商業・工業」や「観光」は、現状の物を有効活用することが大きな意見ではありますが、特に商業・工業であれば、現在の土地を活用していかなければいけないため、起業しやすくするといったところは市に担当して頂きたいといった要望が出ました。

あと、年を取ってくれば、やはり地元で仕事ができたらより良いのではないかとということで、働ける場としての商業・工業というのが必要ということで、市が雇用のマッチングをして頂くといった提案が出ました。

「農業」についても、今の農地については、市民農園にしても、今なかなか高くて借りられないとのことですので、今農家が使っていない土地があるならば持っているものを活用できるようにするという意見が出ました。

「観光」については、これも元々通過点だったという歴史の話もあったので、なかなか見出すのは難しいので、今あるものをやはり使っていくのが良いのではないかと考えます。特に干潟が臭いといった意見がありましたので、今あるものを整備してなるべく観光してもらえるようにして頂きたいと要望が出ました。「のんびりした街」という印象がアンケートにもありましたので、都市部の観光客がのんびりしに来て習志野市の市民の方と交流する場にするという方向性で、今あるものを活用して頂きたいのと、潮干狩りのできる場所を作るといった案も出てきました。

「新しい産業・企業誘致」については、大学が何件もあるので大学から起業してもらおう、また土地やシャッターが閉まっているお店をマッチングさせてもらおう、大学からの起業を市がサポートすることを提案します。

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (2) ワーキング作業結果 A 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
商業・工業	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗が増えた ・JRと京成の駅前・中で賑わいの差が多い ・シャッター街が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通商品券。市外の人でも使える ・市役所の中に相談(商店主)ができる ・開業の資金援助アドバイス ・企業やJR京成と積極的に連携する ・市役所・新庁舎の最上階レストランに！文京区役所のように 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴あるお店が増えると楽しい ・企業がまちづくりを企画する
都市農業	<ul style="list-style-type: none"> ・関心がない。少なくなってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民農園をもっと増やす。市で借り上げ ・直売所があれば支援→空き店舗利用 ・市に情報→使いたい人へ情報提供 ・農業体験。アドバイス(ドイツの事例) ・くるりんバスをもっと便利に 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を持った街並みに再生。統一感
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・海沿いの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港へのアクセスの良さを活かす ・キラッとまつりを年2回開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・B級グルメ ・きらっとまつりに参加する ・楽しんで歩ける。途中で立ち寄れる所
新しい産業創造 企業誘致		<ul style="list-style-type: none"> ・市内の大学生が住む場所 ・埋め立て地の効果的な活用 ・農業と連携した産業 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生が歩く道を(大久保とか)魅力的に

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (2) ワーキング作業結果 B 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
商業・工業	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化。大規模店舗へ人が流れている ・京成津田沼駅周辺の商店街を活性化したい ・大型店の増で小売店がなくなる ・谷津駅周辺のスーパー問題(以前、NHKで放送) ・特色ある商店街とか、商業施設が欲しい ・工業など、市外へ逃さないように 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝市・夕市などを作る ・市と商工会議所の連携制度・地域振興券 ・商店も継続的に客が来るような努力(1~2コインで) ・地元住民従業員数により法人税減 ・コミュニティバス運行・保育ルームの確保 ・企業PR。存在と商店セール等々 ・コミュニティバスの範囲を広げる ・京成津田沼のホテルの利用(市役所の使後) 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なフリーマーケットの開催。地元野菜提供など ・地元で買い物をする ・市民の就業 ・セールへの住民参加可能に ・PM5:00~7:00にワンコインセールを行う ・京成津田沼駅ちば銀上の元ホテル!?!の活用
都市農業	<ul style="list-style-type: none"> ・農地がなくなる ・観光農園がほしい ・都市型農業とは? 地産地消 ・農業地を貸して活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を残す政策 ・市として地産地消制度文化・場所の確立 ・生産緑地などの将来的な確保 ・ニンジン祭りなど市としても積極的にPR。地産の販売証明表示 ・市と市民の協力でニンジンレシピ 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費する ・インターネット等で発信する
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・谷津干潟の観光化 ・鳥の食糧を増やす ・クリーン→有機物の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機物を増やしエサを増やす ・バラ園・駐車場整備 ・できれば、商店街を通る、市のニンジンを購入してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民も協力して盛り上げる。都市農業につながる ・文化遺産としてあれば良い ・地域行事を増やす。住民参加。消費拡大。地産のアピール
新しい産業創造 企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・科学館(千葉市きぼーるみたいな)やプラネタリウムや体験音楽施設のようなものを、京成津田沼周辺(便利なので)で作れないか ・スポーツの街!?!音楽の街!?!教育の街!?!をアピールできる施設や商業施設 ・客をよべる屋内スポーツ施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、音楽の合宿できる屋内施設を! ・コアエリアの計画的な再開発。京成津田沼周辺 ・足の便の良い場所に特色ある施設を誘致 ・土地の提供をし、企業でやってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・茜浜、工大施設無料で使用
消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が買い物に行ける環境、利便性 ・JR線路を越しての買い物が大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスで習志野市で買い物 ・バリアフリーに ・エレベータの設置 ・宅配便のサービス券。割引券 	<ul style="list-style-type: none"> ・習志野市で買い。バス利用

テーマ 2 地域経済・産業の振興 (2) ワーキング作業結果 C 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
商業・工業	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の働く場 ・京成各駅周辺の再開発 ・空き店舗の活用 ・地元企業と雇用のマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業をしやすいとする ・地元で働ける場所作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業をしたい人への助言(経験者からの)お金の手当 ・おしゃれなカフェがあまりない
都市農業	<ul style="list-style-type: none"> ・農家とのコミュニケーションの場がもっとあると良い ・個人で使える畑があると嬉しい ・習志野のもの(野菜とかおかし)をたくさん集めて月イチくらいで市場をやる。フリマ等 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模農地の取得への促進(企業などが) 	
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・市外の人と市民のコミュニケーションがとれるとよい ・観光しやすい様交通アクセスの工夫 ・習志野ホールの利用。子どもの発表会 ・谷津干潟が全然おもしろくない。地味すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟がくさかったので、綺麗にしてほしい。 ・潮干狩りしよう 	
新しい産業創造 企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な企業とタイアップしてスポンサーになってもらい、巨大なイベント等をやる(マラソン大会など) ・大学が多いので大学の活用 ・工場関係地の有効利用(東習志野地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学→起業。市がサポート 	
消費生活	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物弱者を出さない ・スーパー・商店の営業時間のサマータイム夜9時まで延長してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備(混雑緩和) 	

テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (1) 議事要旨 A班

危機管理については、全てにおいて被ってくると思いますが、まず市民が参加することが大事だと思います。参加するという意識はあっても自ら取り組んでいない人が多い気もしますので、やはり参加を意識して地域住民とのコミュニケーションを増やし、参加することにより自分達で必要な知識を身に付けることが一番大切といった意見が出ました。そして、それを町会で取り組んでいくことが望ましい所ですが、まだ町会の中で参加できない場合であったり、知らない人の中に入るとを躊躇することも多いため、市の中で市民が参加したくなる行事を考えていくと良いという提案が出ました。全てにおいて、まず市民が頑張っって前向きに取り組んでいくことが大切だと考えます。

防災については、市としてはやはり防災の拠点となる所の整備を充実してほしいと考えます。小学校・中学校が防災の拠点となっていると思いますが、食糧やそれ以外の備蓄についてもより充実していけたら良いと思います。また、市内だけではなく、市外の人が最終的に辿り着ける所がなくて習志野市に来る可能性もあるため、それを考慮した上で準備出来たら良いという提案がありました。また、市民としては、自分達の防災のため、防災用具等を各家庭で準備する事が一番大切という意見が出ました。

防犯については、自分達の町会が仲良くなることや、コミュニケーションが取れることが、一番の防犯になるのではないかという話ではありましたが、現在の状況でまだそれが難しい部分もあるため、ルールを作るといった形もありますが、市民防犯の政策等を少し出して頂けると、各町会で取り組んでいけるのではないかという意見が出ました。

消防の面でいえば、消防団として消防車に乗る機会がある中で、道路が狭くて消防車が入って行けず、消防活動がやりづらくなる面もあるため道路の整備等が一番大切と意見が出ました。また、市民としては、消防活動と救急等についても取り組んではいるのですが、やはり参加率が悪いので、参加する事が大切ではないかといった意見が出ました。

交通安全については、先程の消防や防犯と絡む部分もありますが、最近自転車が増えたため、歩道や車道の整備、街灯を沢山付ける事が出来ると良いという提案がありました。私達市民としては、やはり自転車の運転や歩く時のマナーが欠けているのではないかと思う所もあるため意識していきたいと考えています。

その他に、実際震災に遭った際にどこへ向かえば良いのか迷わないよう対応をきちんとして頂きたいといった要望や、避難所単位のシミュレーション訓練を考えたら良いのではないかといった提案がありました。

テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (1) 議事要旨 B班

市街地整備、住宅、道路・交通、下水道、ガス・水道の5項目ですが、いわゆるインフラといったところが課題となります。

市街地整備と住宅については、一つのカテゴリーにまとめました。課題として出たのは、一人暮らしの高齢者世帯、空き部屋の把握等、古い団地に住んでいる方の高齢化が進んでいるのではないかとといった課題があります。それに対して、市には将来計画を策定して頂きたいといった提案が出ました。二つ目の課題としては、例えば津田沼駅ですが、駅からバス停までの間は雨に濡れないように屋根等があると良いといった意見が出ました。三つ目ですが、景観が悪いという意見がありました。市に聞いたところ、市街化調整区域で無秩序に開発する地域があるとのことでした。そこで市としては、景観条例等を是非検討して頂きたいという意見が出ました。四つ目としては、古い住宅です。これは耐震化促進の制度を市で作って頂いていますが、順次進めて頂きたいという意見が出されました。

道路・交通の一番の問題は、やはり道が狭く複雑で、幹線道路が整備されておらず、市内の移動がスムーズではないことです。市としては、まず鉄道の高架化や、狭隘道路開発等を行うといった意見が出ました。また、災害時の輸送道路を決めて頂いて、そこから対策を考えられないかというところでした。あとは歩道整備をして頂きたいといった意見も出ました。課題の二つ目としては、南北移動の便が悪いことです。具体的に津田沼と幕張海浜地区ですが、市として移動手段を整備して頂きたいといった要望がありました。三つ目は、谷津駅に快速電車の停車がないことですが、これは市としてオーダーを出していくしかないのですが、通勤帯に一部でも止めて頂くところから皆で活動することになるかと考えます。市民としては、道路計画に合わせた話し合いに参加し意見を出すといった提案がありました。

下水道については、老朽化や下水の普及率が分からない、大雨の後冠水する所が一部ある、また谷津地区の下水が逆流するといった課題があります。これに対し市は、下水道幹線をしっかり耐震化して頂きたいという要望が出ました。下水の普及率は現在85%程度とのことでした。ただ、普及していない地域に関しては引き続きお願いしたいという意見がありました。また、冠水の面ではアンダーパスの対策です。人命が奪われる可能性から、なかなか雨水幹線を作ることは大変なため、まずはカメラ監視で人の命を守る対策をお願いできないかといった提案が出ました。市民としては、下水を引いても使わない方には市の整備・事業を是非積極的に利用して頂き、冠水に関しては、カメラに収める等して市に連絡して確認して頂くといった動きが必要ではないかという意見が出

した。

ガス・水道に関しては、下水と似ていますが、まず古い経年管が多くて災害時の貯水は大丈夫なのか、また最新鋭の水道施設がないためどうなっているのかという疑問が出ました。良い意見としては、市の水道が安くておいしく、ガスも安くてありがたいといった意見が出てきました。市への要望としては、宅地内のガス管・水道管入れ替えの補助金制度を充実して頂き、配管の耐震化をこれから計画的にやって頂く、また貯水に関しては市民にもっとPRして頂きたいといった意見が出ました。最新鋭の水道施設に関しては市の予算課で要望を出すか、井戸マップを市として作成・管理、また井戸を提供した市民に対して助成を行うことを検討して頂けないかといった提案が出ました。市民としては、制度を利用し入れ替えをして、防災訓練に参加して、各家の貯水状況を把握すること、井戸を持っている方は井戸を開放して頂くといった提案が出ました。

テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (1) 議事要旨 C班

結論めいたことから言うと、この問題は習志野市というよりも大きな課題として捕えることがありまして、個人一人ひとりがどう向かえば良いのか、それに対して行政の方でそういった個人の意識をどう高めていくのかが、習志野市においては大切ではないかという意見が皆さんの中でまとまったのではないかと考えています。

まず、地球温暖化対策については、何が地球温暖化に作用されているかというところで、CO₂ではないかと話が出ました。あとは、そのCO₂を大量排出しているものは化石燃料を使うからではないかという意見が出ました。そこで、自然エネルギーを使用するとなった時に、まだまだ設備やコストがかかるため、行政については補助金等の助成を行って頂くという意見が出ました。市民の方については、LED化するといったCO₂を減らす努力をすることが大切だと考えています。

自然環境については、谷津干潟が出てきましたが、人が手を加え過ぎたことで以前の姿から離れてしまっているとのこと。鳥が少なくなったことが一例として挙げられましたが、自然環境を元に戻して循環サイクルを作っていったらどうかという意見が出ました。

公園・緑地については、やってはいけないことが書かれている看板が多く、自由が制限されているという課題がありました。また、公園の方がなかなか活用されていないため、子どもだけで楽しめる状況を作ることも大切ですが、高齢者の方と一緒に楽しめるように活用していくことが良いと思います。緑地については、花を植えていくといった取り組みができるのではないかと提案が出ました。

廃棄物等については、習志野市に限った話ではありませんが、不法投棄されている所があります。これに関しては、やはり誰かがそこに捨てたために周囲もそこに捨てて行ってしまうといった面があるため、個人個人が意識しなければいけない、また子ども会等に参加して綺麗にするという意見が出ました。

環境の保全については、地球温暖化対策で出てきましたが、森などはCO₂の吸収を行ってくれますが、そのままでは吸収がうまくいかないため、間伐といったものをやっていかなければCO₂の吸収が多く出来ないのではないかと意見が出ました。

その他の意見としては、まず公園の緑地化については、公園が綺麗にされているようで綺麗にされていなかったりする所があったり、場所によっては溜まり場のようになり、防犯上良い意味で人が集まっていない状態であるため、市の方ではなかなか難しいかとは思いますが、地域ごとに防犯を兼ねた形の見回り活動が必要になっている部分があるという意見がありました。

ごみの問題に関しては、習志野市には優秀な焼却炉があるため、これ以上ごみの分別を強化する必要はほとんど無いのではないかという意見が出ました。これからは燃えるごみの量を減らすにはどうすべきか考える必要があると考えます。あとは、焼却炉の保全や定期整備を行い長持ちさせるようにするという政策をやっていくことが必要という意見もありました。

テーマ3 安全対策・都市基盤整備 (2) ワーキング作業結果 A班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・情報（住民） ・災害時の市施設の電気の自給 ・コンプライアンス ・マネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型の行事をしていく ・防災計画の早期作成 ・災害後の通路（道）の作成の想定計画 ・地区別（町内）避難計画・自活援助計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する ・高齢者・独居高齢者・避難ハンディ者の情報共有 ・利害の一致しやすい防災を題材に情報共有の場を作る ・地域での自活計画、定期的訓練に参加
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携 ・千葉市は携帯電話を活用している ・高齢者の避難・障がい者の避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点の整備(避難)市外からも来るかも ・市役所の放送の活用・利用する ・津波情報の発信 ・液状化対策の策定・上下水道 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災用具の準備。各家でも ・防災倉庫の充実
防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・街灯が暗い ・パトロール・市民散策 ・ひったくり（例：藤崎） 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯を増やす ・小・中学生に防犯ブザーを持たせる ・市民防災対策 ・公園等に防犯カメラの設置（子どもが安心して遊べる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で見守る。（いない人もいる） ・町内のコミュニケーションを良くする
消防・救急	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院 ・高層住宅の対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防車が入れる道路の整備 ・消防・救急・教育の継続した実施 ・コンビニやスーパーの災害時の協力（イオン等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急教育に参加 ・路上障がい物の除去
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・道路が狭い。電柱が邪魔 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備 ・路上駐車のパトロール ・一方通行化による歩行・自転車用スペースの確保 ・電線・電柱の地中化 ・自転車用スペースの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車は車道を走る ・自転車運転者のマナー（教育）向上 ・自転車での逆走はしない

テーマ3 安全対策・都市基盤 (2) ワーキング作業結果 B班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
市街地整備 住宅	<ul style="list-style-type: none"> 古い団地がある 公団に住んでいる方の高齢化(少子化)が進んでいる 建物や地域で世代が分かれすぎ 景観が悪いエリアがある 駅からバス停・タクシー乗り場までは雨に濡れないようにしてほしい 古い住宅 	<ul style="list-style-type: none"> 当該地区の将来計画を策定 駅前の整備 景観条例を定める 耐震化促進 建物の高さ制限条例を定める 	<ul style="list-style-type: none"> 制度活用 意見を出す
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> 道が狭く複雑 国道14号の混雑 開かずの踏切 歩道が無い道路がある 幹線道路が整備されていない(南北) 習志野市内の移動がスムーズでない 南北の便が悪い(津田沼⇄幕張海浜地区) 谷津駅に快速停車を!(ここ数年のダイヤ改正で非常に不便になった) 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の高架(踏切り対策) 狭隘道路対策 防災と合わせた道路整備(災害時の輸送道路) 歩道を広くして欲しい。歩道整備 移動手段の整備 (谷津駅の快速停車)通勤帯に一部でも止めてもらうようオーダーを出す 	<ul style="list-style-type: none"> 道路計画にあわせた話し合いへの参加 意見を出す
下水道	<ul style="list-style-type: none"> 配管の老朽化 下水の普及率が分からない 大雨の後、冠水する(ごく一部) 谷津地区の下水逆流 	<ul style="list-style-type: none"> 管線の耐震化 下水普及率85%。普及していない地域への取り組み アンダーパスの対策(監視カメラetc.) 	<ul style="list-style-type: none"> 下水を利用していく 冠水した所を連絡。記録に残す
ガス・水道	<ul style="list-style-type: none"> 経年管が多く残っている 災害時の水の蓄えは大丈夫なのか分からない 最新鋭の水道設備でない。安全・安心? 市の水道が安くておいしい。ガスも安い。ありがたい 	<ul style="list-style-type: none"> 宅地内・ガス・水道管入替の補助金制度 配管の耐震化 市民へPR 予算化し、最新鋭の施設の建設 井戸マップの作成・管理・助成 	<ul style="list-style-type: none"> 制度を利用した入替工事 防災訓練参加・呼び掛け→情報把握 井戸を開放

テーマ3 安全対策・都市基盤 (2) ワーキング作業結果 C班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2 排出量の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然エネルギーの活用（風力発電等） ・自然エネルギー発電・使用への補助金 ・浜辺の整備。CO2 の減少に役立つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネル・ソーラー給湯・LED化・省エネルギー ・CO2 を減らす努力
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人が手を加え過ぎて良いものが失われた ・干潟の保全・活用。鳥が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機物を増やし、ゴカイ・カニを増やし、鳥を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・海藻の無臭堆肥化。自然に戻す
公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・やってはいけないことが多い ・良い公園があっても行く手段が無い(不便) ・公園・緑地の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある公園の整備（子どもが安心して遊べる） ・子どもと一緒に高齢者も健康目的で利用できる遊具の設置（子どもを大人が見守る） ・多目的利用・高齢者用遊具。緑地→花造りイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊歩道に花をいっぱいにする ・自主管理で維持・保全 ・花づくりをする ・高齢者が子どもの面倒を見る
廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄が多い ・ゴミ焼却費削減が政策として見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ減量化(紙ゴミ→分別強化で有価物に) ・炉の保全・定期整備。長期利用へ ・プラスチックゴミ焼却でコークス削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ減量化。分別で有価物に ・子ども会などで有価物回収を行う ・ゴミの日にゴミを拾う
環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・放射能汚染対策が見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定値の公表速報。測定器具の貸出し ・林や農地の保全・整備 ・個人の意識高揚のために行政の働きかけ 	

【子育て・子育て支援】

大きく分けて五つの課題が出ました。一つずつ紹介させていただきますと、まず育児・保育に高齢者パワーの活用方針が無いことです。こちらはお年寄りが子どもと触れ合えるような場を提供していただきたいと考えています。当然、今の時代ですから、高齢者が勝手に子どもの手を引っ張っていると怪しまれますので、ルール作りを市の方で積極的に検討されては如何かと思います。市民としては、保育に高齢者パワーをもって参加していくといったところになります。

二点目ですが、親の交流・情報交換が進んでいないということです。三歳児の子どもの行き場が無くなっていること、コミュニティの場が分からないということで意見がありましたが、こちらは色々な施設は提供して頂いているのですが、屋内施設から屋外へ出る、いわゆる公園デビューといったところが課題です。そういったところが良く分からないという意見がありました。昔は、毎月乳児の身長・体重を測ってもらう機会があって、そこで交流やママ友が出来たといったことがありましたが、今は無くなっているということが課題です。これに対して、市として「広報紙で出ますよ。」という一方的な情報発信に留まるのではなく、何か質問があった時にアンサーが出来るような取り組みを検討してもらいたいと思います。あとは、コミュニティの場をもっと広く提供をお願いしたいといったところになります。市民レベルでは、ネットワークづくりや自発的な行動、一番重要なツールである広報誌をチェックし、情報収集するといったところ、子育てはやはり親と地域が責任をもって行うといったところになります。

三点目は、公園の制限が多すぎるということで、例えば「ボール遊びは駄目」、「木にハンモックをつるすのは駄目」と、少し我々の世代では考えにくいようなことが起こっているようです。市にはそういった制約を少なくして頂きたいというのが要望になります。市民としては、やはり市が制限することには原因があり、当然声の大きい方がどうしても苦情を入れるといったことになりますので、もっと子どもに寛容に、地域住民も一緒に子育てをしていく、また昔いた頑固おやじではありませんが、制限する前にちゃんと怒り、この悪い負のスパイラルを是非脱却していきたいといった意見がありました。

四点目ですが待機児童、習志野市の保育所待ちが今41名とのこと。こちらは市として対応を是非検討して頂きたいといったところ。その一つとして、今やはりお年寄りの力というのが非常に大事になっています。そういった力を利用して、例えば短時間保育でお年寄りに活躍して頂く、市民は市の方でせっかく作って頂いたファミリーサポートという制度がありますので、こちら

を積極的に活用して頂ければ良いと思います。

五点目ですが、医療費の助成が習志野市にあるのですが、年齢の引き上げをお願いしたいと思います。市として検討して頂きたいといったところですが、市民の方はやはり実際今 300 円という金額で、市販の薬より安くなってしまっていますので出た意見の一つで虫さされでも病院に行くという人もいらっしゃいます。その辺は市販との関係を踏まえて、出来ればあまり上がってほしくないのですが、上がったものを中学生や高校生の方に回して頂くと良いのではないかと意見が出ました。

【学校・幼児教育】

意見が六点出ました。

まず、一つ目が、学社融合の広まり方針が見えないとのこと。この学社融合というものは工藤委員が調べてくれたのですが、秋津コミュニティが 1997 年に学校を開放して社会と融合させるという取り組みをやり、表彰までされたことがあるそうです。私もこの場で知ったのですが、せっかくそういった取り組みがちゃんと習志野市でされていますので、こういったものを方針化して是非広めて頂きたいと思います。

二点目ですが、幼児学校の家庭教育学級は大変ありがたいのですが、人数の枠とか回数の制限があるそうなので、是非増やして頂きたいと思います。増やして頂ければ、今枠外の方もいらっしゃいますから、その方も積極的に参加するだろうという意見がありました。

三点目ですが、図書館の本が充実しているのは嬉しいのですが、特色のある蔵書集めがあっても良いのではないかと意見がありました。習志野市は残念ながら、基幹図書館というものが無いので、専門書等を増やしたり、一か所基幹レベルの図書館を是非検討して頂けないかと考えています。そういったものがあれば、もっと積極的に市民は利用していくことになると思います。

四点目ですが、学校給食の食器を幼稚園や保育園と同じようにしてほしいとのこと。実は保育園や幼稚園の食器は別々ですが、小学校ではワンプレートになっています。汁物だけはお椀に入れてあるそうですが、ご飯がプレートに盛られるということで当然親は食器を持ってご飯を食べよう教え、せっかく保育園・幼稚園で食器を持って食べていたのが、また犬食い状態に戻ってしまうということで、ここは是非検討してほしいといったところです。

五点目が、文教住宅都市に見合った設備と取り組みが分からないということです。結局市民に開放された設備や取り組み、市も市民もですが、「こういう施設があります。」と言うだけではなく、市民レベルまで歩み寄っていかないと、「文教住宅都市」というせっかく良い宣言をされているものが、かなり大きい目標と感じております。

最後に、小中高一貫教育など特色ある教育制度がありません。「文教都市」を謳っておりますので魅力ある教育制度を是非検討して頂き、例えば音楽・スポーツ・学習でも良いですが、他市から「習志野市で学ばせたい。」という教育制度があれば、最終的に習志野市に住みたくなるということにも繋がるかと思えます。そういったところを利用して市民が減るといった解決策にも繋がっていければといったところです。

【学習・スポーツ・文化】

こちらは大きく分けて四つの意見が出ています。

まず一点目は、お年寄りが公園に魅力を感じないということです。先程の「児童」の部分もですが、ある市では高齢者用健康器具等を公園に置いて、うまく高齢者に外に出てもらうといった取り組みをしていくといったところです。そうすることにより気軽に公園が利用でき、コミュニティづくりにつながるといった意見です。

二点目は農と食と健康文化の伝承が無いということです。習志野市は、以前のワークショップで出ましたが、ニンジンとネギというのが一つキーワードになっております。ですから、食文化学習と市民農園を随時開放していき、そういった取り組みをお願いできないかと思えます。料理教室の講師等は、やはり高齢者パワーをうまく利用して、市民はそこへ参加していくといったところになります。

三点目ですが、大人が学習する機会を定期的に作ってほしいとか、生涯学習施設が少ない、市民カレッジの宣伝・活用が見えないといったところです。これは何かと言いますと、市民カレッジを習志野市で開催しているそうです。ただ、参加できる人数が少ないと言ったことや、知らないといったところがありますので、市民カレッジは交流の場となりますので広めて頂きたいということと、せっかくカレッジを出たOB・OGの方がいらっしゃいますので、その方達の力を活用をして頂ければと思います。市民はやはり積極的に参加し、そうして広まればもっと増えるのではないかといいところです。

最後になりますが、スポーツ施設の利用料が高いということです。これはテニスコートの話が例に挙がりましたが、1800円とかなり高いということで、やはり先程の「文教都市」といったところもありますので、民間との調整があるのかもしれませんが、まず率先して民間より安くして頂き、市民の健康増進ではないですが気軽に利用できる取り組みを是非ご検討して頂きたいといった意見が出ました。

テーマ４ 子育て・教育・学習 （１）議事要旨 B班

【子育て・子育て支援】

子育て・教育・学習ということですが、自分の子育ては終わってしまったのですが、やはり非常に重要な課題があると思います。今、共稼ぎの家庭が非常に多いということで、待機児童の方がいらっしゃるという話もあったのですが、保育所の数がやはり少ないということになるかと思います。以前、新聞に「住みやすいまち・住んでみたいまち」というアンケートがあり、こういったことも若い世帯が子育てしやすいまちというのも、まちの魅力として充分アピールすることが出来るのではないかと思います。そのためにも保育所等を作るのは、なかなか難しいかとは思いますが、今ある幼稚園に保育所を併設することで、保育所の不足を補えないかと考えています。あと子育てで、育児教室といったものがあるかと思いますが、そういう堅苦しいものではなくママ友作りが出来るような、お茶飲み会をしながら子育てしているお母さん方が情報交換できるといった場を市の方で設けて頂いて、子育てしやすいような環境を作ると、その時に市のサービスや情報も伝えることができるのではないかと思います。また、習志野市には児童館が一つあるそうですが、その他に公民館といったところで、子ども達に色々な遊戯を教えるといった充実を図ったら良いのではないかと思います。市民としては、お年寄りというか先輩としての色々な知識を若い子どもたちに伝えていけるようなことが出来れば良いのではないかと、おせっかいと感じられてしまって難しいとは思いますが、何か場があれば積極的に年配の方たちも知恵を貸してあげることが必要なのではないかと思います。

【教育】

自殺等がニュースになっていますが、非常に深刻な問題であると思います。市の方でも色々な調査を行い認識しているとのことですが、当然認識はしているのですが、「うちは、いじめはありません。」と言うような学校は、おそらくいじめはないのだからそれに対する対策は行われていないと思いますけれども、習志野市では調査と、それに対応する対策を今後とも続けて頂きたいと思えます。

教員の数が少ないと意見が出ましたが、今１クラス４０人の教室をこれから３５人になるとのことですが（当然教員の数が増え、特殊学級は教師の数を抑えるとのことですが）、大変かと思うのですが教師の数を増やして細かい気配り目配りを子ども達にしてもらえよう教育をして頂きたいと思えます。あと、耐震に対する補強工事とかかされていますが、まだ完全ではありませんので、

こちらも予算の関係もあって大変かと思いますが早期に進めて頂きたいです。

あと特色ある教育ということで、国際化ですとか、パソコン使用が当たり前になっていますので、小学校から教育の中に取り入れて、習志野市としては先進的な教育をして頂きたいと思います。私立の某高校では授業で英語しか使わないそうで、すごい高校があると思いましたが、そこまでいなくても、そういう機会・授業を市としてやって頂いても良いのではないかと思います。中には小さい頃から英語など必要ないと言う方もいらっしゃるって難しい問題もあるかと思いますが、できればこれから国際化していく社会の中で小さい頃から英語やパソコン操作等も慣れていくことが必要ではないかという気がします。市民といいますか家庭では、学校の道徳教育だけでなく、親から子どもへの色々な思いやり・優しさといった心の教育が必要ではないかと思います。それと地域による子どもの社会教育ですが、これは先程頑固おやじの話がありました、見て見ぬふりをするのではなくて、大人も子どもがやっていることを悪いと思ったら注意できる大人になる必要があるのではないかという気がします。

【学習】

子どもの学習ではなく、大人の学習ということなのですが、先程の英語がありました、大人は民間の英会話教室がありますが、非常に費用もかかりますので、気軽に何か学べる場所があれば良いのではないかと思います。あと、少数の教育ですが、先程 1 クラス 35 人になってくるということもありますので、少数の教育を習志野市が率先してやって頂ければと思います。あと、農業体験ですが、市民農園という意見がありました、充実して頂いて、農業体験できるものがあれば良いと思います。

図書館の充実ですが、中央図書館が無いということで、これも新しく建物を作るとなるとなかなか難しいのかもしれませんが、充実した図書館があれば良いと思います。他市ではツタヤが運営しているという話を聞いていますが、実際どうなるか分かりませんが、蔵書が増えるといったメリットがあれば検討してみるのも面白いのではないかと思います。今、新習志野図書館は自習室がありますが、他の図書館にはそういうものは無く、あと図書館内での騒音やスペースの問題で本の置き場が無くなる等難しいと思いますが、絵本を置いて子ども達が少し騒いでも楽しめるようなスペースを設けて頂きたいと思います。

大学が習志野市にはいっぱいあるのですが、大学図書館やテニスコート等を市民に開放して頂きたいです。大学によっては図書館等を市民に開放しているところもあるそうですが、習志野市の場合は行政が間に入り交渉して頂ければと思います。あと、大学ツアーと意見がありました、せっかく大学が何校か周囲にありますので、子ども達を連れて将来その大学へ入学ということがあって

も面白いのではないかと思います。

最近、学校の先生が金銭的な理由で、部活の顧問にならない・なりたがらないということもあるようだという話もありました。そんな中、ボランティアで年配の方でも時間の余裕があって昔色々やられた方で、子ども達を指導しても良いと思っている方が中にはいらっしゃるかと思いますので活用したら如何かという感じです。あと、小中学校で広い校庭が沢山ありますので、平日はもちろん部活等で空きはないと思いますが、土・日二日間通して空いているような所があれば開放し、健康づくりや高齢者力の活用に繋がられないかと思います。

テーマ4 子育て・教育・学習 (2) ワーキング作業結果 A班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
<p>子育て 子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育児、保育に高齢者パワー・知恵の活用方針がない ・親の交流・情報交換が進んでいない。 ・3歳の子どもの行き場がない。 ・コミュニティが分からない。屋内施設→屋外へ ・昔、毎月乳児の身長・体重を測ってもらう機会があって、ママ友がたくさんできてありがたかった。でも、今なくなってしまった ・公園の制限が多すぎる(ボール遊びNG、木の使用NG) ・花火をやる場所がない ・待機児童(保育所待ち41名) ・一回の負担料は増えてもいいので、医療費補助の年齢を引き上げてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが子どもとふれあえる場・ルール作り ・一方的な情報発信でなく、アンサーがある取り組み ・コミュニティの提供 ・公園の制限を少なくする ・保育に高齢者パワーを(短時間保育も) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に高齢者パワーが参加 ・ネットワークづくり ・広報紙をチェックする ・情報収集 ・自発的な行動 ・子育ては親・地域が責任をもって行う ・“子ども”に寛容に。地域住民も一緒に子育てしてほしい。制限の前に叱る ・ファミリーサポートの活用 ・病院を安易に利用しない
<p>学校・幼児教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の広まり、方針が見えない ・幼児・学校の家庭教育学級はありがたい 幼：もっと多くの人に参加できるように 学：もっと多くの人に参加してほしい ・図書館の本が充実しているのは嬉しい。特色のある蔵書集めがあっても良いかも(専門書) ・学校給食の食器を幼稚園や保育園と同じようにしてほしい(犬食いに戻る) ・「文教都市」に見合った設備・取組みが分からない ・(小中高)一貫教育など特色ある教育制度が無い 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き校舎の市民開放。責任のある組織化 ・人数枠・回数を増やして欲しい ・専門書など増やす ・1ヶ所、上のレベルで集めた施設 ・ワンプレートをやめる(食育) ・市民に開放された設備・取組み ・魅力ある教育制度・音楽・スポーツ・学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織化された自主活動 ・参加したい ・利用する ・情報収集 ・習志野に住みたい
<p>学習・スポーツ ・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りが公園に魅力を感じない ・農と食と健康文化の伝承がない ・大人が学習する機会を定期的に作ってほしい ・生涯学習施設が少ない ・市民カレッジの宣伝、活用が見えない ・スポーツ施設の利用料が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者用健康遊具を設置 ・食文化学習と市民農園の開放 ・カレッジの広まりとボランティア活用(OB、OG) ・民間より安い、無料化(市民)→チケット制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に公園を利用する ・料理教室の講師をする(高齢者パワー) ・積極参加

テーマ 4 子育て・教育・学習 (2) ワーキング作業結果 B 班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
子育て 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代(若い世代)に魅力ある町(転入) ・絵本作り ・公園は多いが、遊ぶものが少ない(広い場所に滑り台のみとか) ・母親の就労支援と父親の協力 ・遊び場の確保(規制?) ・本の読み聞かせ ・親子で行ける図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児教室で行政サービスの情報 ・児童館の充実 ・JR の子育て支援のパートナーシップとしての連携(市) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ママ友づくり ・高齢者力(先輩としての知識の活用) ・育児施設
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ ・教職員が少なすぎる(若手) ・県と市の役割分担 ・施設の充実(老朽化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の安全の確保 ・英語・パソコン。小学生からの推進(特色ある教育) ・教育の機会均等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域による子どもの社会教育 ・学区割(通学距離・学力) ・親から子どもへの心の教育。思いやりと優しさ
学習	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育 ・語学を気軽に学べる場がほしい ・農業体験 ・個性を活かす ・市民図書館の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の充実 ・図書館の運営を民間に任せる ・スポーツ施設の整備、充実 ・自習の出来る場所の充実 ・大学の施設の活用。図書館等 ・大学ツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の校庭の活用(土・日)。ボランティアによるクラブ活動

テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (1) 議事要旨 A班

【男女共同参画の実現】

A班の中でも様々な年代の方がいることから、男性の育児休暇に抵抗があるという意見もありましたが、この20～30年の中で、女性の社会的地位は確実に上がっており、昔のような女性差別もなく、職場においては優秀な女性が大変増えているというお話がありました。同時に、制度的に男女共同参画を進めていくよりも、市民一人ひとりの意識が、自然に醸成されていく方が良いのではないかという話になりました。男女共同参画の理念からは逆行しているかもしれませんが、子どもが学校から帰ると、家に母親が帰りを待っているという状況は良かった、と言うのも正直な感想です。

もう一つは、父親＝働く男性が定年を迎えた時に、地域で孤立してしまうという状態が社会問題ともなっています。父親も育児や介護、地域の活動に参加して、定年後にも居場所がないということにならないよう、若いうちから市のイベント等に夫婦で参加したり、市や地域社会では夫婦が共に参加できるようなレクリエーションに取り組む、あと学校行事に家族揃って参加できるような取り組みを市や地域社会等で設定していくことが必要ではないかと思いました。

父親（働く男性）が家庭や地域での役割を担うには、職場（事業者等）の理解も必要ですが、家庭が一番小さな、基本となるコミュニティという観点から、男女共同参画の実現のためには、まず家族を大事にしようという結論となりました。

【交流の推進】

交流については、昔、市内にドイツの捕虜収容所があったという関係から、ドイツとの友好、ビールとかソーセージをはじめとしたグルメ路線から地域振興をしていこうというものがありました。それと、ストリートミュージシャンや習志野高校の吹奏楽部のような音楽の街をアピールしていくことが課題となりました。現在でもアピールはしており、習志野高校の吹奏楽部は全国的にも知られていますが、もう一歩進めて、「習志野市＝音楽の街」というVIP感を増していくような取り組みをしていきたいという話がありました。

新庁舎については、観光地など地方にはユニークな庁舎もありますので、独創的な庁舎として、目玉になるようなものを作り、その中で習志野市のグルメを提供することが出来たら良いと思います。先ごろ、千葉県内の住みやすい街ランキングで、津田沼が第4位になりました。「習志野市」という名称をもっと知ってもらうことから始めなければならないと思いました。

【平和啓発事業の促進】

最近の子どもには世界観がないのではないか。知識としては平和について大事だとは思ってはいても、深いところまでは考えられないと思います。それは、学校でも地域社会でも家族の中でも、平和の大切さをちゃんと教えていないのかという問題点も挙げられましたが、これからは大人が真剣に平和について教えていくことが大切です。昔と違い平和の概念が複雑化しているので、大変難しいとは思いますが、蓋をしないで、大人が平和の意味と大切さを訴えていく、具体的には世界平和の標語を募集する、学校では修学旅行で広島に行くといった取り組みはありますけれども、基本は日頃の教育が大事というところです。

テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (1) 議事要旨 B班

【男女共同参画の実現】

まず課題は、地域活動に男性が参加しないということがあり、また働きたい女性の子育て支援、近場の保育所が必要であるということがあります。市としては地域での交流を活性化し、市民としては近隣住民と普段からお付き合いしていくことが必要という意見がありました。近場の保育所等に関しては、幼稚園と保育所が一体化されているこども園に集約されることになり、それはそれでメリットはあると思いますが、場所が遠くなり不便になることも出てくるので避けてほしいと思います。それから子育てを行政の参加で責任を持ってほしい、あと市民としては子育て支援を積極的に要求していくことになりました。

それから、世帯主の名前で会合等に登録していますが、実際に出席するのは女性であるということが結構あります。小学校等で保護者の名前を書く時に、たいてい父親の名前を書きますが、実際に出席するのは誰かという母親ということが多いといった慣習のようなものがあります。行政等の書式でサインをする人の欄は、市としては実際にサインをする人が分かるようにしていけばよろしいかと思います。

あと、連絡網でもそういうことがあって良いのではないかと思います。私自身の経験からすると、子どもの予防接種の保護者の欄には、たいていは皆父親の名前を書きますが、実際それをやるのは母親です。責任を持って子どもを見ているのも本当は母親なのに、名前は父親というところがあります。ある病院で「これは母親の名前を書きましょう」と言われた事がありましたので、市民として、そういったところからの意識改革が男女とも必要ではないかと感じました。

【交流の推進】

交流については、災害時の行政間の連携等はどうなっているのか、3.11の時はどうだったのかということ等、いくつかのパターンの交流について考えてみました。災害に関しては、何か災害があった時に、遠隔地…例えば北海道や九州などの地域と普段から交流を持ち、非常時にお互いに協力し合うシステムが習志野市にはあったのかどうか、海外の姉妹都市ということではなく、遠隔地行政との協定を作り交流にも災害時にも活かしていけば良いのではないかと思います。そして、市民としては災害時のボランティアに登録した相手側の市の方に、実際何か合った時にボランティア活動が出来るという方の訪問所、何かあった時に参加するというシステムがあっても良いと思います。

次に、イベント等に外国人の参加が少ないとのことですが、やはり外国の方も多く住んでいらっしゃるので、そういう方も交流していくことは大切だと思いますので、市の方では外国の方に向けての宣伝も、日本語だけではなく色々な形にして頂きたい、市民としては地域での交流の場をきちんと作っていく、外国の方も参加しやすい場を作ってあげることが必要だと思います。

それから、また別の交流のパターンですが、市内の学校同士の交流を活発化するのも良いのではないかとということで、「幼稚園・小学校」、「小学校・中学校」という形の交流はありますが、小学校同士や幼稚園同士の横での繋がりがあまり見えないです。ちょうどこの間、小学校の授業の内容を市内の色々な学校の先生方が見に来るということがありましたが、他の学校でどんな授業をやっているのか、どんな活動をしているのか、子ども同士がお互いに見る機会が全くないので、そういう交流をして頂くことも、子ども同士も楽しいですし、他の学校がどんな地域にあってどんな活動をしているのか分かるのも楽しいかと思えます。またセカンドスクールに行くのにいくつかの学校が一緒に行けて交流できるのも良いかもしれないですし、スポーツ交流等はおそらくサッカーやバスケットボールくらいはあると思いますが、それ以外も含めて行う。

あと文化はやはり音楽という形になってしまうかもしれませんが、そういう交流があっても良いので、市の方で企画して頂きたいと思えます。市民にとっても生徒間で交流をしていくという形です。それから、イベントが一過性で交流が深まらないことがあるので、市としてはお客様でなく実際参加することで交流が深まっていくようなイベントを企画して頂き、市民としては、主催者が楽しむだけでなく、本当に参加者全員が参加できるイベントを作り上げ、市民は積極的に参加していくことが必要という意見です。

【平和啓発事業の促進】

習志野市には、どこかで核実験がある度に市長名で毎回抗議文を出しているというお話を聞きましたが、それを我々市民が全く知りませんでした。そういうことで、市が具体的に取り組んでいることが見えていませぬので、市としてはどんなことをしているのかまず広報して頂きたいと思えます。それで、広報して頂いたものを市民としては積極的に情報収集をしていく必要があるといったところです。それから、平和というもので、戦争等に対する平和だけでなく、日常の平和についても話し合いました。治安についての話になってしまいますが、習志野市の警察と市民との間で距離感があります。習志野警察署が移転したのですが、市民の傍にある警察署という感じではなく、また交番も移動しましたが非常に分かりにくい場所で、何かあった時に街の中にあると言いますか、市民の中においてくれる交番に感じられなかったりしますので、市と連携して本当に市民を見守ってもらえるようにして頂きたいという意見が出ました。市民は輪の拡大をしていくことが大切です。

【その他】

その他としては、市と市民の情報共有ということで、今まで何回かこのワークショップに参加していて、色々言いたい放題言っていくと、実は習志野市がきちんとやって下さっていて、我々が知らないだけだったということが山ほどありました。市の方は効果のある分かりやすい広報・PRをして頂きたいと嬉しいと思います。そして、自分自身の課題でもありますが、市民としてきちんと情報を得ていくことが必要だと感じました。

テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (2) ワーキング作業結果 A班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
男女共同参画社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会的地位は上がっているか ・昔ながらが良い ・女性のチャレンジを応援する社会 ・男性の育休なんてとんでもないという世代も ・イクメンで休めない。40歳以上は… ・子どもを連れて外出できる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に父・母・家族も参加する ・男性の外出を促す取り組み。レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のイベントに夫婦で参加する ・お父さんも育児に参加する
交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎を独創的で、50年、100年経ってもしっかりしているものにしてほしい。 ・津田沼が住んでみたいまち千葉県4位 ・アメフト。素材ある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートミュージシャンが自由に演奏できる場。若者文化交流 ・音楽のまちをアピール。習志野高校の吹奏楽 ・B級グルメ。地域振興 ・他県との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツとの関係。ソーセージとビール ・飲食店のスタンプラリー(まちコン) ・習志野のVIP感増す ・館山市まちおこし(フラダンス・ビーチバレー・花火)
平和啓発事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を広島に引率・体験 ・子どもに世界観がない ・世界平和の標語を募集 ・子どもが戦争など知る機会を 	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みを感じない。 ・気付く場を、何時でも目に触れるように。 ・歴史の積み重ねを教える ・性根を入れて平和を教える 	

テーマ5 その他、男女共同参画社会等 (2) ワーキング作業結果 B班

項目	課題	市が取り組むこと	市民が取り組むこと
男女共同参画社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働・男性が参加しない ・働きたい女性の子育て支援。近場の保育所 ・男性が保護者欄に女性の名前書かない ・世帯主(男性)の名前で会合等に登録。実際は女性が出席 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での交流の活性化 ・こども園等になり、遠くなることを避ける ・子育てを行政の参加で責任 ・行政等の書式に実際にサインする人の欄。連絡網等も 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居者・近隣住民と普段からのお付き合い ・男女とも意識改革 ・積極的に要求していく
交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の行政間の連携? 3・11の時は? ・イベント等に外国人の参加がない ・市内学校同士の連携 ・イベントが一過性で交流が深まらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔地行政との協定 ・外国人向けの宣伝? ・姉妹小学校制度など ・セカンドスクール ・スポーツ交流・文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時のボランティア登録、参加。 ・地域での交流の場を作る ・生徒間の交流 ・主催者が楽しむだけでなく、皆が参加できるイベントに
平和啓発事業の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の平和・治安 ・警察等との距離感 ・宣伝・取組みの具体的な物が見えない 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様でなく参加型のイベント ・市と連携した見守り街づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な情報収集 ・輪の拡大
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市と市民の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果のある広報・PR 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民として情報を取る